

東京歯科大学同窓会会報 第363号

目 次

グラビア セピア色の写真館

巻 頭 言	1
お知らせ	2～3
理事会のうごき	3～5
会 務	6～8
学 術	9
保 険	10～13
母校だより	14
支部のうごき	15～21
ふるさと自慢	22
クラス会だより	23～28
OB会・グループ・サークルだより	29
すいどうばし	30～31
逝去会員	32
追悼・庶務日誌	33
へんしゅうこうき	34

(表紙 野村 淳)

セピア色の写真館 ～思い出の一枚～



写真上 対大阪歯科大学定期戦後, 写真下 対医科歯科大定期戦後



1959年(昭和34年)約50年前のサッカー部、憧しい青春時代の一コマです。

当時のサッカーはマイナースポーツ



で部員が少なく廃部寸前の状態でした。ちなみに人気スポーツは皇太子殿下、美智子さまの軽井沢での「テニスが結ぶ恋」とかでテニス部が大人気でした。そこで当時学2だった佐々木次郎先生(昭和36年卒)が中心になり先輩より引き継いだ部を立派にして後輩へ送ろうと部員を募集し、合宿コーチを呼んで戦術と練習の結果、約二年で対大阪歯科、対医科歯科、対日歯定期戦に勝ち、医歯



薬リーグでも常に上位争いに加わるチームになりました。強いリーダーの情熱と指導力のもと強くなる時の勢いと過程を身をもって体験したことは、今だに思い出して微笑む程楽しい経験でした。この時代が以後50年のサッカー部の伝統となっていると自負しています。3段目左の写真は、憧れの小石川サッカー場で撮影。左から石川 恭(S37)・村松篤(S38)・白岩良一(S38)・若月英三(S37)・佐々木次郎(S36)・野村 浩(S40)・田中界治(S36)・高橋正義(S38)。

(昭和38年卒・白岩良一 記)



老いと若さ



副会長

江 崎 梅太郎

大学卒業後、すこぶる健康で、体調不良で診療を休むことはなかった。他人からは“元気ですネ”“丈夫でいいネ。”と云われ、自分自身も長生きし、あわよくば高齢診療のギネス記録を……。と考えたこともあった。もっとも体調にはそれなりに気をつけて、厄年には酒を飲むより不真面目にも人間ドックに入院したり、体調不良のときはかかりつけドクターに診療してもらおう…と、まあまあ健康管理はしたつもりであった。

古稀に近づいた頃、診療時になにか少し体に異和感を覚えるようになった。各種診療器材のスイッチ操作が微妙にズレているような感覚である。疲れで集中力が切れたかなあと思っていたがどうも違う。だんだんとズレる感覚の回数が増えてきた。もっともスイッチ操作のズレが1秒も違うわけではなく、多分1/100秒くらいだと思われるが……。ズレると云う感覚は確実にあって、いつ

のまにか“老い”が私にも来たわけである。

このズレは、口腔内で切削器具を操作しているときに最も恐いわけで、一步誤ればすぐ感謝料、賠償……となる今日此頃である。

70代になって、いろいろ思ったが、老化のための感覚のズレは不治の病と判断し、75才の誕生日をもって休院とした。

長々と自分の事を書き過ぎたようです。

さて、母校は創立120周年に向かおうとしています。同窓会もそれに近いのではないのでしょうか。

私が気になるのは“同窓会の老化”はないだろうかと思ふことでもあります。

いやー、そんなことはない。新組織が決まるときは若い会員が役員になるのでしょう。支部長も若くなるのでしょう。会員だって若い会員が入会してきます。老化なんて考えられません。と云われる方は多い。

わが同窓会は長い歴史をもち、誇り高い今があります。これは多くの先輩と今の会員がつくったものです。人がつくった歴史には陽の部分と陰の部分があると思います。陽の部分は会員の前に堂々と披露されるが、陰の部分は、ポケットの底のホコリのように隠されているのではないのでしょうか。私自身、数年理事会の末席をけがしているが、未だその陰の部分は少しもわからない。しかし、神でない人間の築いた歴史の中にはやはり、陰の部分はあるだろうと推論しています。

会員の皆様に多大の迷惑と心配をお掛けした2007年の事件は、積み重なった陰の部分が惹き起こしたものだと感じております。そして、当時の理事の一人として、お詫び申し上げたいと思います。

もし、陰の部分に影響されるとしたら、それは同窓会の老化と云えるのではないのでしょうか。

大山会長が組織された新役員会では、皆がオープンな発言をし、その中で良い意見をまとめようとの空気が感じられます。(役員会がチョット長くなるのが玉にキズですが…)

この空気が続けば、やがて、同窓会は、役員が知っていることはすべて会員が知り、会員の出来事はすべて役員が知ることになるだろうと思ひます。

そして、陰の部分が次第に少なくなり、やがてなくなってゆくでしょう。

人は老いることが宿命でしょう。しかし、同窓会は若くなるのが宿命だと思います。そして、若さとは年齢や卒業年度とは関係ないでしょう。同窓会の今と未来へ若さを注入して進みたいものです。

会員の皆様の実行力を期待いたしております。

お知らせ

理事会より

●新事務長紹介

事務長 梅津道生 (昭和17年10月8日生)

狩野彦三郎氏が平成20年3月31日を持って退職されました。後任の事務長として梅津道生氏 (元水道橋病院 事務部長) が平成20年4月1日付けで事務長に就任いたしました。



同窓会事業・行事

●第36回全国ゴルフ大会

と き 平成20年9月4日 (木)

ところ 埼玉県 霞ヶ関カントリー倶楽部

●平成20年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会

と き 平成20年11月22日 (土)

ところ ホテルメトロポリタンエドモンド

(千代田区飯田橋3-10-8)

●TDC 卒後研修セミナー2008プログラム

実技セミナー

No.2 見直そう口腔外科疾患の診断と基本手技 5月25日(日)

No.3 実践 MTM ステップアップコース 6月21日(土)・22日(日)

No.4 新素材, 歯冠修復の新たな潮流
～メタルフリー修復の実際とその基本手技～ 7月6日(日)

No.5 導入しよう! インプラント治療 9月6日(土)・7日(日)

ベーシックセミナー

No.6 パーシャルデンチャーをもう一度学ぼう ～設計の秘訣～ 10月26日(日)

卒研フォーラム

No.7 患者さんの健康を支援する
～歯科医師のできること歯科衛生士にできること～ 11月9日(日)

問い合わせ先: 東京歯科大学同窓会学術部

Tel. 03-5275-1761

地域支部連合・支部関係

●地域支部連合会会長の交替

平成20年1月1日付

東海地域支部連合会 浅野 尹男 氏 (45卒)

前連合会長 宮田 保 氏 (46卒)

平成20年4月1日付

九州地域支部連合会 石田 雅男 氏 (44卒)

前連合会長 新垣 元洋 氏 (51卒)

●支部長交替

平成20年3月22日付

福岡県支部 石田 雅男 氏 (44卒)

前支部長 廣田 稔 氏 (38卒)

平成20年4月1日付

蒲田支部 服部 孝介 氏 (47卒)

前支部長 潮田 正春 氏 (45卒)

香川県支部 藤本 清 氏 (48卒)

前支部長 黒田 哲生 氏 (35卒)

佐賀県支部 副島 洋二 氏 (53卒)

前支部長 古賀 景二 氏 (51卒)

平成20年4月5日付

青森県支部 松山 陽一 氏 (34卒)

前支部長 工藤 幸男 氏 (34卒)

母校関係行事・案内

●平成20年度東京歯科大学学会

第285回 例会 平成20年6月7日(土)

第286回 総会 平成20年10月18・19日(土、日)

演題締切 8月26日(火)

●「創立120周年記念式典・祝賀会」の開催日については、平成19年度評議員会において平成22年10月を予定している旨ご案内致しましたが、第2回創立120周年記念事業実行委員会(平成20年2月22日(金)開催)において、諸般の事情により、下記のとおり変更となりましたので、取り急ぎお知らせ致します。なお、開催場所につきましては、収容人数・施設等を勘案のうえ、都内のホテルで検討しております。

記

変更前 第1候補日 平成22年10月16日(土)

第2候補日 平成22年10月23日(土)

変更後 第1候補日 平成22年5月22日(土)

第2候補日 平成22年5月8日(土)

理事会のうごき

会員の信頼回復、和衷協同の体勢で会運営に全力を尽くす大山執行部の船出

大山新執行部は、昨年の不祥事に対する反省と失った信頼の回復をめざし、「医の倫理を規範として和衷協同の体勢」で同窓会運営に全力を尽くすことを確認し、本日を新たなる出発点として母校建学の精神を心に抱き「変革と発展」をコンセプトとして荒海に向かって出航した。

第1回理事会

平成20年1月12日(土)午後2時30分

於 特別会議室

出席 30名 来賓 金子学長

議長 大山会長

学長挨拶

- ・同窓会との密接なる連携をはかる
- ・本学創立120周年記念事業への協力を依頼
- ・キャンパス移転計画について
- ・不祥事が全面的な解決に至っていない状況について
- ・学識の向上と品性と品格の向上について

会長挨拶

- ・不祥事に対する謝罪と反省について
- ・マスコミ取材に対する発言での注意
- ・健全で信頼される同窓会をつくる
- ・地方と東京との温度差の縮小
- ・母校創立120周年記念事業への協力について
- ・医の倫理と叡智をもって和衷共同で事にあたる

黙 禱

平成19年12月から平成20年1月までに逝去の連絡があった12名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。

報告と承認

(1) 監事選出結果

平成19年度評議員会において議長・副議長に監事選出を一任し、浅野、原、平井の3名が選出された旨報告、

承認。

(2) 副会長の委嘱と職務分担

下記各位に副会長とその職務分担を委嘱する件につき、会長一任されたい旨提言、承認。

江崎 (学術部・渉外部)、服部 (保険部)、柳 (情報部)、片倉 (広報部)、神谷 (厚生部)

(3) 専務理事および常任理事の委嘱と職務分担

専務理事、常任理事とその職務分担を委嘱する件につき、会長に一任されたい旨提言、承認。

専務・関 総務部・中島 会計部主任・佐藤 会計部・江里口 渉外部・木俣 学術部主任・宮地 学術部・河田 学術部・山本 広報部・三友 厚生部・野上 保険部・前田 情報部・臼井

(4) 地域選出理事

各地域支部連合会より1名ずつ合計11名の地域理事が選出された旨報告。

(5) 地域支部連合会会長名簿

資料を配付して、地域支部連合会会長11名を報告。

役員紹介

専務理事より紹介。

協議事項

(1) 常任監事の互選

互選の結果、浅野薫之氏を常任監事に選出、承認。

(2) 嘱託の委嘱

下記会員を嘱託に委嘱したい旨提言。協議の結果、承認。

① 鳴神 保雄氏 (任期：委嘱した会長の任期に準ずる)

(3) 役員名簿の公表

標記名簿の公表について協議の結果、診療所もしくは自宅のうち、各々の要望により掲載することで承認。

(4) 理事会、常任理事会の開催について

1) 資料を配付して開催日を説明。協議の結果、承認。

2) 議長について

理事会、常任理事会の議長は副会長が担当し、役員名簿順に議長を行う旨提言。協議の結果、承認。

(5) 各部委員会委員の選出

各部委員会委員を選出し、2月末までに名簿を提出されたい旨依頼。協議の結果、承認。

(6) 役員の出張

出張者を下記のとおりとしたい旨提言。協議の結果、承認。

1) 地域支部連合会出張者

原則として会長、副会長、当該地域選出理事の3名が出席。

2) 支部総会出張者

原則として専務理事または常任理事のうち1名が出席。但し、役員交替により本年度は会長も出席する。

(7) 前期役員に対する記念品 (議長・副議長を含む)

標記について協議の結果、退任者に記念品贈呈を決定、記念品については会長一任とすることで承認。

(8) 前期役員からの引継ぎ事項

「東京歯科大学同窓会平成20年度執行部への申送り事項」「東京歯科大学同窓会共済規定に関する考察」を配付し協議の結果、次回から検討することで承認。

(9) 東歯関係日歯役員・代議員、都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会

標記懇談会を協議の結果、下記のとおり日歯代議員会の前日に開催することで承認。

日 時：平成20年3月12日 (水) 午後6時半開会

場 所：ホテルメトロポリタンエドモント

(10) 推薦会員退会願いについて

牛込支部・田中 豊治氏 荒川支部・畠 亮氏について会則第10条に基づき審議の結果、平成20年1月12日退会を承認。

会務報告

(1) 庶務報告

平成19年12月18日から平成20年3月12日までの日程を報告。

(2) 各部報告

1) 総務部

① 支部長交代について報告

② 平成20年1月11日をもって8名の旧支部長あてに感謝状ならびに記念品を贈呈した旨報告。

③ 平成19年度、20年度東京歯科大学学年暦を報告。

④ 平成20年度評議員会・定時総会を開催する旨報告

日 時：平成20年11月22日 (土) 午前10時開会
場 所：ホテルメトロポリタンエドモント

⑤ 平成20年1月1日現在で新たに高齢会員に該当する会員 (昭和7年生まれ) 61支部110名の該当者を報告。

⑥ 平成20年1月1日現在で新たに共済金免除会員に該当する会員 (昭和2年生まれ) 51支部93名の該当者を報告。

- ⑦ 学術講演会講師派遣交通費1件の支出報告
- 2) 会計部
 - ① 東京歯科大学第113回卒業証書・学位授与式に祝い金を贈呈する旨報告。
- 3) 渉外部
- 4) 学術部
 - ① 学術部委員会報告
学術部委員会での確認事項ならびに協議事項を報告。
 - ② 「TDC 卒後研修セミナー2008」の資料を配付して、次の事項を報告。
 - ・年間7回9日のセミナーが開催される。
 - ・4月20日開催の第1回セミナー開催日に開校式を行うので会長の挨拶を頂きたい。副会長をはじめ多数参加されたい。
 - ・受講者は現在既に延べ153名で参加者多数が見込まれる。
 - ③ 「TDC 卒後研修セミナー2007報告」の資料を配付して、大学別受講者、卒年別受講者、地域別受講者を報告。
- 5) 広報部
- 6) 厚生部
 - ① 逝去会員について
平成19年度逝去会員は12月28日現在で累計109名、平成20年度逝去会員は1月9日現在で累計8名、規定により弔慰共済金を支給した旨報告。
- 7) 保険部
- 8) 情報部
 - ① 東北地域支部連合会総会を6月21日に開催の予定である旨報告。
- (3) 井原理事（関東）
 - ① 1月1日付で埼玉県支部長が交替した旨報告。
- (4) 高橋理事（東京）
 - ① 1月7日に東京地域支部連合会第1回理事会を開催し、服部玄門新会長以下、新執行部が発足した旨報告。
 - ② 1月19日に東京地域支部連合会新年交歓会を開催する旨報告。
- (5) 片桐理事（信越）
 - ① 信越地域支部連合会総会を6月に新潟県支部担当で開催の予定である旨報告。
- (6) 伊藤理事（東海）
 - ① 東海地域支部連合会会長が交替の予定である旨報告。
- (7) 宮本理事（北陸）
 - ① 会報が増えるので、綴るバインダーを欲しいとの要求がある旨報告。
＜回答：経費節減のためバインダー配付をしない＞
 - ② 「東京歯科大学同窓会会長表彰」の会長賞および優秀賞の賞金について質問。
＜回答：会長賞1名30万円、優秀賞2名で40万円、合計70万円を授与している。＞
- (8) 小室理事（近畿）
特に報告事項はない旨発言。
- (9) 濱田理事（九州）
 - ① 九州地域支部連合会でネットワークを構築し、会員へ情報提供することを報告。

各地域選出理事報告

- (1) 戸田理事（北海道）
 - ① 理事会の協議事項とその資料を事前に送付してほしい旨要望。
 - ② 1月19日に荒木 雅氏の叙勲受章（瑞宝双光章）祝賀会を本会小樽支部主催で開催する旨報告。
 - ③ 1月19日に本会副会長柳 清二氏の厚生労働大臣表彰祝賀会を空知歯科医師会主催で開催する旨報告。
- (2) 岩沼理事（東北）

その他

- (1) 本日の連絡会で、昨年的事件に関わる3会員に関する同窓会の考え方について協議の結果、時期を失せぬうちに同窓会としての方向付けをすとの結論を得た旨報告。
- (2) 「井上 裕資料室」の資料を配付して、本日の理事会終了後、水道橋校舎5階に設置された本学理事長井上 裕先生の資料室を見学する旨報告。

会 務

東京歯科大学同窓会各種委員会委員

(平成20年1月～平成21年12月)

渉外部委員会委員

渡辺 眞 光(S43卒) 大井 誠 一(S53卒) 金子 節(S55卒) 永井 和 広(S55卒)
島村 大(S60卒)

学術部委員会委員

◎藤 関 雅 嗣(S56卒) ○野 嶋 昌 彦(S57卒) 萩 原 俊 美(S58卒) ○小 林 慶 太(S58卒)
平 井 基 之(S59卒) ○加 藤 賢 祐(S62卒) 木 暮 隆 司(S62卒) 牧 野 寛(S62卒)
寺 田 仁 志(S63卒) 高 柳 篤 史(H1卒) 福 本 恵 吾(H2卒) 高 橋 潤 一(H4卒)
花 井 淳一郎(H4卒) 本 間 敬 和(H4卒) 相 原 一 之(H5卒) 小 島 將 司(H5卒)
山 本 雅 通(H6卒) 浅 田 智 宏(H7卒) 安 藤 友 彦(H7卒) 野 村 幸 恵(H7卒)
山 口 雅 史(H7卒) 石 山 智香子(H9卒) 佐 藤 留美子(H9卒) 石 川 一 磨(H10卒)
橋 本 佳代子(H10卒) 松 岡 政 之(H13卒) 堺 健太郎(H15卒)

広報部委員会委員

◎小 林 伯 男(S40卒) 内 山 健 志(S48卒) ○林 量 一(S48卒) 東 郷 幹 夫(S51卒)
○臼 田 準(S53卒) 小 池 修(S56卒) 尾 崎 圭 子(S60卒) 福 井 雅 之(S61卒)

厚生部委員会委員

◎田 原 邦 昭(S45卒) 鈴 木 良 明(S54卒) 仲 谷 清 孝(S55卒) 西 山 潔(S57卒)
橋 田 博 純(S58卒)

厚生部委員会ゴルフ大会委員

酒 井 雄 学(S29卒) 中 井 英 夫(S34卒) 高 宮 紳一郎(S49卒) 堀 正 樹(S54卒)
中 野 正 博(S55卒) 三 島 裕(S55卒) 大 谷 義 之(S62卒)

保険部委員会委員

◎中 川 杉 生(S44卒) 早 速 晴 邦(S49卒) 蛭 谷 剛 文(S53卒) 中 西 国 人(S53卒)
石 原 忍(S54卒) 勝 俣 正 之(S55卒) 大 木 志 朗(S58卒) 佐々木 眞 澄(S58卒)
矢 島 正 隆(S58卒) 相 庭 常 人(S60卒) 高 橋 敬 人(S62卒) 堀 川 晴 久(S62卒)
金 子 久 章(H2卒)

情報部委員会委員

◎細 越 隆 夫(S58卒) ○堤 正 幸(S59卒) 寺 田 香 織(S61卒) 川 越 元 久(H1卒)
田 中 千 元(H9卒)

◎印は委員長 ○印は副委員長

新入会員(卒業生)に同窓会のオリエンテーション実施

平成19年度の卒業生に対する同窓会のオリエンテーションが3月24日(月)に、卒業式の予行演習の後、母校第4教室で開催された。東京歯科大学同窓会会員証(バッジ)、同会員名簿、同窓会創立100周年記念誌、同窓会報創立110周年記念特集(共にCD)、2008年度卒研セミナー案内などが事務局から配布された。

中島信也常任理事(総務担当)からオリエンテーションの趣旨説明、個人情報保護の説明の下、同窓会名簿の必要性が話され、個人票の作成を

依頼し全員が記入した。その後、本学同窓会の変遷、全国109支部を基盤とした組織や機構、事業の概要について説明があった。伝統ある東京歯科大学の卒業生は好むと好まざるところを問わず、一生涯脱退のできない同窓会の会員である。少々窮屈に思うかもしれないが、全国どの支部からも心から歓迎されるので、1年間は卒後研修があるが研修後は必ずどこかの支部に所属し、同窓会員として活躍していただきたいと話された。

続いて新入会員には最も身近で重要な同窓会の事業である学術部の活動について学術部委員会・藤関雅嗣委員長から、卒業後の生涯研修の重要性、事業内容について説明がなされた。さらに、荻原俊美委員(2008年プログラム担当)から2008年度卒後研修セミナーの概要、卒後研修フォーラムの説明があり、研修歯科医の立場でも、受講料の優待制度などを利用し、ぜひ参加するようと話された。



平成20年度 新入会員(第113回卒業生)

氏 名	本 籍	氏 名	本 籍	氏 名	本 籍	氏 名	本 籍
あおき かずみつ	青木 一充 (静岡県)	き せ あきひと	木瀬 章人 (静岡県)	たけい か おり	竹井 香織 (埼玉県)	ほりうち あきら	堀内 章 (山梨県)
あおき きょうこ	青木 香子 (東京都)	き むら りゅうた	木村 領太 (千葉県)	たけうち かい	竹内 快 (千葉県)	ほんだ まゆ	本田 真由 (鳥取県)
あらき ゆうすけ	荒木 優介 (鹿児島県)	くろ しまゆきな	久留島幸奈 (神奈川県)	たけうちげん たろう	竹内玄太郎 (新潟県)	まえの まこと	前納 允 (東京都)
いじま としひこ	飯島 俊彦 (千葉県)	くろだ ひでたか	黒田 英孝 (群馬県)	たけお さとる	武生 智 (大分県)	まかべ やすし	眞壁 康 (千葉県)
い かしな お	五十嵐那央 (新潟県)	こじま ひろつぐ	小嶋 啓嗣 (東京都)	たけしま ゆ か	竹島 由華 (高知県)	まつき しん たろう	松木慎太郎 (埼玉県)
いし い ももこ	石井 百子 (千葉県)	こだま さ や か	児玉紗耶香 (静岡県)	たずみ ひろのり	田隅 寛憲 (兵庫県)	み え たにあきよ	水枝谷彬代 (鹿児島県)
いしかわ のほろ	石川 昂 (東京都)	ごとう ひろあき	後藤 弘明 (東京都)	たなか ともひろ	田中 智大 (静岡県)	み かみ ともひろ	三上 智彦 (千葉県)
いしはら だいすけ	石原 大補 (群馬県)	ごばやし けんいち	小林 健一 (千葉県)	たにの まさひろ	谷野 昌弘 (岡山県)	み しな ゆ み こ	三科祐美子 (福島県)
い はら ゆういち	井原 優一 (埼玉県)	こばやし ひろし	小林 弘史 (山梨県)	ちよう たいち	長 太一 (神奈川県)	むらおか かんじ	村丘 寛実 (千葉県)
いまむら よしき	今村 嘉希 (神奈川県)	こまつ しゅんいち	小松 俊一 (山梨県)	とみた るり	富田 瑠璃 (岐阜県)	むらやま まさと	村山 雅人 (富山県)
いわぶち ひでまさ	岩淵 英正 (宮城県)	こなぎ のぶゆき	小柳 伸之 (北海道)	なか い まり	中井 真里 (徳島県)	もとよし まさと	本吉 真人 (千葉県)
いわみ こうへい	岩見 康平 (千葉県)	さいとう ゆ か	齋藤 裕香 (千葉県)	なか お ただし	中尾 正 (千葉県)	もりかわ たかみち	森川 貴迪 (福島県)
う い やすあき	宇井 康晃 (千葉県)	ざい ま けんすけ	財満 健介 (山口県)	なか そ ねともみ	仲宗根智実 (東京都)	もろほし たかひろ	諸星 貴大 (神奈川県)
うちやま ひろし	内山 宙 (新潟県)	ざかもと とよあき	坂本 豊明 (和歌山県)	なかむら しゅん	中村 瞬 (東京都)	や けいしやす お	矢毛石康男 (熊本県)
え さぎ つかさ	江崎 司 (愛知県)	さきほら やつひろ	崎原 八廣 (千葉県)	なかむら しゅう	中村 翔 (福井県)	やまぐち たかひろ	山口 貴久 (愛知県)
おおいし たくみ	大石 匠 (静岡県)	さくらい よしなか	櫻井 恵中 (千葉県)	ながやま ひろひと	長山 裕人 (高知県)	やまざき まこと	山崎 真 (富山県)
おおうち ゆうじ	大内 優児 (青森県)	さくらい り か	櫻井 里香 (東京都)	な ら ひろのり	奈良 宏周 (秋田県)	やまむら けいすけ	山村 啓介 (東京都)
おおひら まりこ	大平真理子 (東京都)	さ さ き よしのり	佐々木秀憲 (秋田県)	にし い ともしろ	西井 大博 (三重県)	やまな お まさな	山本 昌直 (高知県)
おかだ さ や か	岡田紗弥佳 (茨城県)	さとう え み こ	佐藤絵美子 (埼玉県)	にしだ あかね	西田 茜 (栃木県)	やまもと まさひと	山本 将仁 (奈良県)
おかだ ゆうすけ	岡田 佑介 (愛知県)	さとう ともしろ	佐藤 知宏 (千葉県)	にへい しんや	二瓶 伸也 (新潟県)	よこやま まい	横山 麻衣 (愛媛県)
おかばやし しげのり	岡林 茂慶 (高知県)	さとう よういち	佐藤 洋一 (東京都)	のうだ あきこ	納田 晃子 (徳島県)	よしおか み ゆき	吉岡 美幸 (徳島県)
おぎはら まこと	荻原 真 (千葉県)	さんじょう けいすけ	三條 恵介 (山形県)	の だしゅう たろう	野田周太郎 (富山県)	よしだ もりお	吉田 守男 (神奈川県)
お の であたかあき	小野寺隆昭 (東京都)	しま	島 ゆみ (兵庫県)	の もと ゆ か	野本 有香 (埼玉県)	よしだ ゆうた	吉田 雄太 (東京都)
かさほら あきと	笠原 明人 (山形県)	すぎむら りゅう	杉村 亮 (北海道)	は た の ゆういち	波多野祐一 (青森県)	よしだ よしふみ	吉田 佳史 (千葉県)
かとう そうすけ	加藤 聡亮 (静岡県)	すだ えいこ	須田 永子 (東京都)	はなわ さとみ	花輪 聡美 (神奈川県)	ろ むねひこ	呂 宗彦 (東京都)
かね こ はじめ	金子 創 (長野県)	せき はるお	関 晴夫 (新潟県)	はら ありさ	原 有沙 (神奈川県)	わかすぎ よしひこ	若杉 好彦 (山梨県)
かのう けいた	加納 慶太 (愛知県)	せき ね りよ	関根 理予 (東京都)	はら まい	原 舞 (東京都)	わきたに あきこ	脇谷 暁子 (千葉県)
かべや れい	壁谷 玲 (東京都)	そうぼく ともしろ	惣卜 友裕 (愛知県)	ひらかわ けいこ	平川 桂子 (福岡県)	わだ けんじ	和田 健志 (広島県)
かも こ	鴨居 智子 (長野県)	そえじま ひろたか	副島 寛貴 (鹿児島県)	ふうら ゆ み	布浦 佑実 (千葉県)	わたなべ こうじ	渡部 光二 (長崎県)
かわかみ ま な	川上 真奈 (長野県)	たかみね ゆうじ	高峰 祐志 (東京都)	ふじた みずは	藤田 瑞葉 (新潟県)	わたべ ゆきお	渡部 幸央 (北海道)
かわさき あゆみ	川崎 鮎美 (愛知県)	たくさがわ まい	田草川 舞 (山梨県)	ふじた もとや	藤田 元哉 (東京都)		
かわち さ わ こ	河内佐和子 (新潟県)	たぐちな お こ	田口奈央子 (群馬県)	ふじもと しゅんすけ	藤本 俊介 (広島県)		

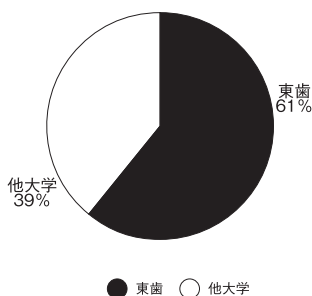
以上126名

2007年 TDC 卒後研修セミナー 受講者の動向について

同窓会学術部委員会では、毎年卒後研修セミナーを開催しています。昨年も6つの臨床実技セミナーと卒研フォーラムを行ないましたが、臨床実技セミナーについてその受講者の動向について分析しましたので、概略をご報告いたします。

1. 大学別受講者について

総受講者数273名において本学卒137名、他大学卒88名(衛生士48名除く)で、61%が本学同窓でした。



● 東歯 ○ 他大学

東歯卒	137名
他大学	88名
(DH48名を除く)	

図1 大学別受講者

2. 卒業年度別受講者について

分析にあたり卒業年度別を5年ごとで区切ってみますと、H19~15年卒36名(16%)、H14~10年卒29名(13%)、H9~5年卒33名(15%)、H4~1年卒33名(15%)、S63~27年卒94名(42%) (DHと不明を除く)となりました。

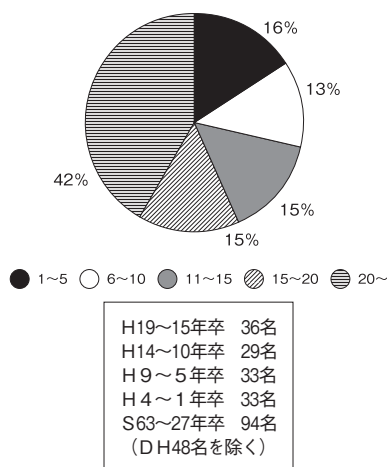


図2 卒年別受講者

3. 地域別受講者について

各地域別の分布は関東150名、次いで東海17名、東北13名、信越、近畿、中国6名、四国5名、九州4名、北陸2名、北海道1名の順でした。

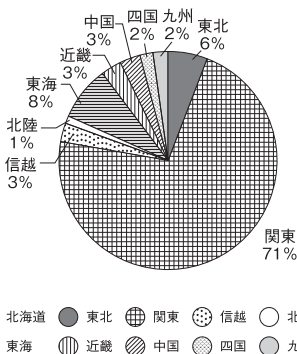


図3 地域別受講者

4. まとめ

同窓会主催のセミナーとして同窓会の事業という性格上、出来るだけ多くの同窓に受講していただきたいと考えております。セミナープログラム委員長として、2007年卒後研修

セミナーにおける同窓の受講が過半数を超えることを目標としていました。結果的に6割を超える同窓が受講され、目標を達成することができました。今後も受講者数における同窓の比率が、さらに増えることが望ましいと学術部委員会では考えています。

近年の傾向を反映して、昨年のセミナー内容をすべて実習付きとし、主な受講対象を卒後10年以内と想定していましたが、10年以内の受講生は約3割程度に止まり、予想に反して20年以上のベテランの先生方に多く受けていただくことが出来ました。これは、今回の企画のなかに口腔外科や歯みがきなどのルーティンワーク的な内容を改めて見直し、臨床のスキルアップとリフレッシュを図るセミナーが有った為と考えています。

地域別では、関東圏からの受講者が圧倒的に多く7割を占めました。移動距離に伴う時間的制約のため、遠方の方はなかなか受講しにくい傾向が伺えます。今後はセミナーの地方開催を視野に入れた企画の必要性が示唆されました。

以上、昨年の卒後研修セミナーの受講生動向について、分析した概略を報告いたします。学術部委員会ではこれからも多くの同窓にとって役立つセミナーや、学術情報等を発信して参りますので、よろしく願いいたします。

2007年プログラム委員長
福本 恵吾

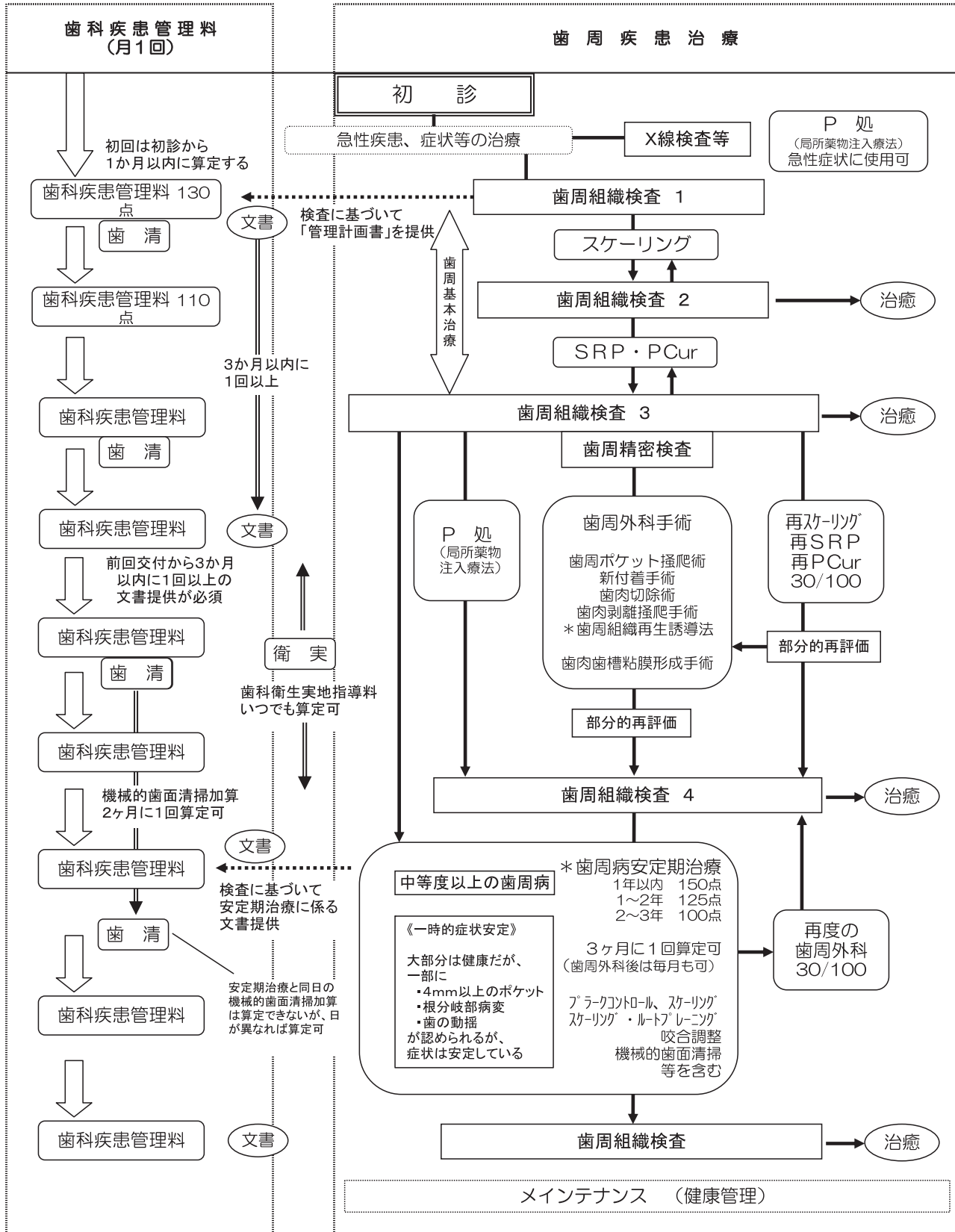
保 険

平成20年度社会保険診療報酬改訂の主要項目（抜粋）

項 目	新 点 数	備 考	
基本診療料			
歯科初診料	↑	182点	
地域歯科診療支援病院歯科初診料		270点	
歯科外来診療環境体制加算〔外来環〕	【新設】	30点	
歯科再診料	↑	40点	
医学管理等			
歯科口腔衛生指導料		削除 ⇒歯科疾患管理料として統合	
歯周疾患指導管理料			
歯科疾患総合指導料 1・2			
歯科疾患継続指導料			
歯科疾患管理料〔歯管〕		130点	
1回目	【新設】		
2回目以降	【新設】	110点	
機械的歯面清掃加算	↓	60点	
フッ化物局所応用加算(13歳未満)		80点	
フッ化物洗口加算(4歳以上)		40点	
歯科衛生実地指導料		80点	
歯科特定疾患療養管理料〔特疾管〕		150点	
歯科治療総合医療管理料〔医管〕		140点	
新製義歯指導料		削除 ⇒義歯管理料として統合	
義歯管理料		100点	
新製有床義歯管理料〔義管A〕	【新設】		
有床義歯管理料〔義管B〕	【新設】		70点
有床義歯長期管理料〔義管C〕	【新設】		60点
咬合機能回復困難加算			40点
在宅医療			
歯科訪問診療料(1日につき)		830点	
歯科訪問診療料1			
歯科訪問診療料2		380点	
障害者加算(障害加算)		175点	
在宅患者等急性歯科疾患対応加算〔急性対応〕		232点	
1回目	【新設】		
2回目以降	【新設】	90点	
老人訪問口腔指導管理料		削除 ⇒	
後期高齢者在宅療養口腔機能管理料〔在口管〕	【新設】	180点	
在宅患者連携指導料	【新設】	900点	
在宅患者緊急時等カンファレンス料	【新設】	200点	
検査			
歯科疾患継続管理診断料		削除	
下顎運動路描記法(MMG)		削除 ⇒顎運動関連検査として統合	
チェックバイト検査			
ゴシックアーチ描記法			
パントグラフ描記法			
顎運動関連検査(1装置につき)	【新設】	380点	
画像診断			
デジタル映像化処理加算		5点	
歯科エックス線撮影(1回につき)	↓		
歯科パノラマ断層撮影	↓		50点
その他	↓	30点	
電子画像管理加算		10点	
歯科エックス線撮影(1回につき)	【新設】		
歯科パノラマ断層撮影	【新設】		95点
その他	【新設】		60点
投薬			
処方せん料		68点	
7種類未満			
イ 後発品を含む場合		削除	

項 目	新 点 数	備 考
処 置		
齲蝕処置〔う蝕〕（1歯につき） 内容の見直し⇒	16点	齲蝕歯の軟化象牙質の除去又は暫間充填 ⇒1歯でも算定可、再装着時の算定可、除去と同時算定可
歯髄覆罩（1歯につき） 非侵襲性歯髄覆罩〔AIPC〕 【新設】	150点	経過観察（3ヶ月必要）中の齲蝕処置の費用を含む
初期齲蝕小窩裂溝充填処置〔シーラント〕 ↑	120点	118点 →131点（技術料+材料料）
抜 髄 非侵襲性歯髄覆罩後3月以内の抜髄		150点を減算した点数（70、256、420点）で請求
根管充填 加圧根充加算 単根管（2根管、3根管以上） ↑	118点	算定要件としてのX線撮影は従来通り 通知見直し（確認できた場合 ⇒確認した場合） （140点、164点）
歯周疾患処置	10点	急性症状時の薬剤注入時にも算定可
歯周基本治療 スケーリング・ルートプレーニング及び歯周ポケット掻爬（1歯につき）		同一部位に2回以上の歯周基本治療（スケーリングを含む）を行った場合の 2回目以降は30/100で算定可 歯周病安定期治療を開始した日以降は算定不可
前歯 ↓	58点	
小臼歯 ↓	62点	
大臼歯 ↓	68点	
歯周安定期治療〔SPT〕（1口腔につき）		月1回 SPT開始以降の歯周外科手術は30/100で算定可
1年以内 【新設】	150点	
1年を超え2年以内 【新設】	125点	
2年を超え3年以内 【新設】	100点	
根管内異物除去（1歯につき） ↑	150点	
ラバー加算	削除	⇒基本診療料に含まれる
手 術		
拔牙手術（1歯につき） 乳 歯 ↑	130点	
難拔牙 ↑	470点	
埋伏歯 ↑	1,050点	
ハミセクション（分割拔牙） ↑	470点	
歯根嚢胞摘出手術 歯冠大 ↑	800点	〈複数手術に係る費用の特例〉 歯根端切除手術と歯根嚢胞摘出手術： 従たる手術は50/100で算定可 歯根端切除手術と 顎骨腫瘍摘出手術： //
拇指頭大 ↑	1,350点	
歯根端切除手術（1歯につき） ↑	1,350点	//
歯肉息肉除去手術	削除	⇒基本診療料に含まれる
歯周外科手術（1歯につき）		算定単位の変更（1/3顎につき ⇒1歯につき）
歯周ポケット掻爬術	75点	
新付着手術	150点	
歯肉切除手術	300点	
歯肉剥離掻爬手術	600点	膜材料は別に算定可
歯周組織再生誘導手術〔GTR〕1次手術 【新設】	630点	吸収性又は非吸収性膜の固定を伴うもの（吸収性+900点 非吸収性+880点）
2次手術 【新設】	300点	非吸収性膜の除去 【施設基準】
麻 酔		
静脈内鎮静法〔静鎮〕 【新設】	120点	同時に吸入鎮静法の算定不可
歯 冠 修 復 ・ 欠 損 補 綴		
補綴時診断料（1口腔につき）	100点	⇒文書提供を算定要件としない
歯冠形成（1歯につき）		
窩洞形成 単純なもの ↑	54点	
複雑なもの ↑	80点	
齲蝕歯無痛の窩洞形成加算〔齲蝕無痛〕 【新設】	20点	窩洞形成時、レーザー照射による無痛の窩洞形成 【施設基準】
生活歯歯冠形成 接着ブリッジの適用：前歯部に支台を求める1歯欠損のみ 形成料は前装鑄造冠、3/4冠と同じ（生活歯）	790点	
齲蝕歯即時充填形成（1歯につき）		
齲蝕歯無痛の窩洞形成加算 【新設】	20点	レーザー照射による無痛の窩洞形成 【施設基準】
支台築造印象（1歯につき） 【新設】	20点	
テンポラリークラウン（1歯につき） 【新設】	30点	前歯の歯冠形成（前装鑄造冠・ジャケット冠）を算定した場合 1回限り
充填（1歯につき） 単純なもの ↑	100点	光CR充填 100点+11点（EE・EB、研磨の算定なし）
複雑なもの ↑	148点	// 148点+28点（ // // ）
イタルETCHING・イタルボンディング法加算	削除	⇒充填に含まれる
鑄造歯冠修復（1個につき）		（技術料）
3/4冠（前歯）	370点	前歯部の接着ブリッジのための費用を含む 3/4冠（バラ）493点 →511点
前装鑄造冠（1歯につき） ↓	1,174点	前装鑄造冠（バラ）1393点 →1394点
充填物の研磨（1歯につき）	削除	
新製義歯調整料（1口腔につき）	削除	⇒義歯管理料として統合
有床義歯調整料	削除	
ラバー加算	削除	⇒基本診療料に含まれる

歯科疾患管理料と歯周疾患治療の流れ



新たな高齢者医療制度について

平成20年4月より「後期高齢者医療制度」が創設されます

平成20年4月よりこれまでの老人保健制度が廃止され、新しく、75歳以上のすべての人を対象とする「後期高齢者医療制度」が創設されます。

○後期高齢者（75歳以上）は独立した医療保険制度に加入します。

後期高齢者については、一般の医療保険制度から独立し、対象は75歳以上の人及び65歳以上で寝たきり等の状態にある人です。

○運営は都道府県単位の「広域連合」です。

後期高齢者医療制度は都道府県単位で運営されます。「後期高齢者医療広域連合」が設立され、保険料の決定、医療費の支払い等の業務を行います。

○後期高齢者（すべての75歳以上の人及び65歳以上の寝たきり等の状態にある人）で75歳に達した人は、自動的に資格を取得するため、特に手続きはありません。

後期高齢者1人1人が被保険者になり、1人1枚ずつ保険証が交付されます。

健保や国保から離れて後期高齢者医療制度の被保険者になります。

健康保険の加入者が75歳に達するとその資格を失い、後期高齢者の被保険者になります。

○保険料は都道府県ごとに異なります。

保険料の算定方法は応能分（所得割）と応益分（被保険者均等分）を半々とし、具体的な保険料月額は都道府県によって異なり約3,900円～7,700円、全国平均で6,000円となります。

○これまで被扶養者で保険料の負担がなかった人も、新たに保険料を負担することになります。

ただし、制度加入時から2年間は保険料のうち「応能分」は徴収せず、「応益分」は半額に減額されます。

更に、政治的決着により被扶養者であった人の保険料負担は、「応益分」を6か月（平成20年10月まで）凍結し、さらに6か月間（平成21年3月末まで）軽減（応益分の10%を納付）されます。

なお、保険料は年金（年金金額が18万円以上の場合）から天引きされます。

○医療機関の窓口においては従来どおり1割を徴収（現役並み所得を有する人は3割を徴収）します。

前期高齢者（70歳～74歳）自己負担割合の見直し

前期高齢者（70歳～74歳）の自己負担割合は従来の1割から2割に引き上げられます。

ただし、負担増は政治的決着により20年は1年間凍結となり、平成21年4月からとなります。（医療機関窓口においては、平成21年4月から負担金は2割となり、現役並み所得者については従来どおり3割負担となります）

特定健診・特定保健指導がスタートします。

40～74歳の人には内臓脂肪肥満に着目した検査項目での健康診査を行い、その結果に基づいて保健指導が行われるようになります。

受付窓口での取扱い並びにご自身がその対象になる方は充分ご注意ください。

母校だより

母校第113回 卒業証書授与式

母校の校庭の桜も例年より早い開花を迎えた晴天の平成20年3月25日(土)、母校の第113回卒業証書授与式が午前10時より東京歯科大学千葉校舎講堂において挙行された。昨年度より国家試験が2月に実施されており卒業生は試験前とは打って変わって、すがすがしく、はつらつとした表情で式に臨んだ。

式は本学混成合唱部による校歌斉唱後、司会の佐藤 亨学生部長による開式の辞に続き、列席者一同国歌を斉唱して開式された。薬師寺副学長からの卒業証書を授与される者は126名であり、大学設置以来の卒業生と合わせ7,974名、専門学校設置以来の卒業生と合わせ13,987名、高山歯科医学院創立以来14,278名となる旨の学事報告に続き、小田豊教務部長の呼名により卒業生が一人一人紹介され、卒業生代表の青木一充君に金子 譲学長から卒業証書が授与された。続いて褒賞の授与に移り、学長賞1名、血脇賞4名、精勤賞10名、11編13名に卒業論文賞が授与された。

金子学長は告示で、『東京歯科大学の価値は、年数の長さという物理的な単位にあるのではないのです。高山紀齋先生の進取の気性、開拓精神、そして建学者血脇守之助先生のヒューマニティーによって創られたいつの時代にも変わることはない建学の精神に基づいた教育理念によって、有為な人材育成を行ってきたことに、その価値があると考えます。医療人として何よりも大切なこと、忘れてはならないことは人間としての「心」を持つことでもあります。物事に対して、感激する心や愛する心、そして慈しむ心を常に持ち続けて下さい。人間性を高めていけるよう日々研鑽して行って下さい。』と述べられた。

来賓の祝辞で井上 裕理事長は、「友人が孫の母校への入学式で、校旗は燦たり風ひるがへれり…の校歌を歌い、校旗を仰ぎ涙した。血脇イズムとはこれである。血脇イズムとは言葉でも物語でもない。また、才能は1%。あとの99%は努力です。私もずっと努力してきた。卒業生の皆様も努力を惜しまないで下さい。」と述べられた。本同窓会を代表して大山萬夫会長は「皆様は本日から日本最古の歴史を持つ全国109支部8千余名の東京歯科大学同窓会の一員になられたわけです。もろ手をあげて歓迎いたします。先輩としてはなむけの言葉を送ります。

1. 患者さんの思考することを正しく深く理解の上、全人的医療を目指すこと。2. 患者さんが技術面で最新にして高い成果を得られるよう自己生涯研修の実施。3. 患者さんから信頼を失うことのないよう、医療行為を厳に戒め、専門職として医の倫理の高揚に努めることが診療姿勢として肝要である。」と祝辞を述べられた。

続いて、在校生を代表して樋口はる香さん(5年)からの送辞があり、青木一充君から答辞が述べられた。最後に小児歯科の久保周平講師



の指揮、高橋由香里さん(3年)のピアノ伴奏で出席者全員が校歌を斉唱し厳粛なうちに閉式した。

受賞者一覧

学長賞：青木一充

血脇賞：奈良宏周、木村領太、原 有沙、佐藤絵美子

精勤賞：木村領太、奈良宏周、宇井康晃、小松俊一、
村丘寛実、小野寺隆昭、青木一充、児玉紗耶香、
原 有沙、富田瑠璃

卒業論文賞：佐藤絵美子、石川 昂、本吉真人、奈良宏周、
飯島俊彦、木瀬章人、呂 宗彦、渡部幸央、
大平真理子、木村領太、大石 匠、本田真由、
小松俊一

支部のうごき

掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも掲載されています。
日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。
印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主催 連絡先	外部より 参加可否
学術講演会 平成20年 5月10日(土)	「インプラントの現実と幻想」 矢島安朝教授 (東歯大インプラント学研究室)	グランドパレス徳島 徳島市寺島本町 1-60-1 TEL 088-622-1111	四国地域支部連合会 連絡先 徳島支部担当：濱松孝典 TEL 088-668-6585 FAX 088-668-6598	四国地域 支部連合 会員
学術講演会 平成20年 5月31日(土)	摂食嚥下障害を理解するための解剖 井出吉信教授 (東歯大解剖学講座)	東山温泉「御宿東風」 会津若松市東山町 石山院内706 TEL 0242-26-4141	福島県支部 連絡先 会津方部理事：佐藤正矢 TEL/FAX 0242-75-4899	支部会員
学術講演会 平成20年 6月21日(土) 午後4時30分 ～6時	「大規模災害時における歯科医の役割」 花岡洋一准教授 (東歯大法歯学講座)	ホテルイタリア軒 新潟市中央区 西堀通7-1574 TEL 025-224-5111	信越地域支部連合会 連絡先 新潟県支部長 清水 潮 TEL/FAX 025-222-3924	同窓会員
学術講演会 平成20年 6月21日(土)	山根源之教授 (東歯大オーラルメディスン・ 口腔外科学講座)	秋田キャッスルホテル 秋田市中通1-3-5 TEL 018-834-1141	東北地域支部連合会 連絡先 秋田県支部担当： 清水隆夫 TEL 0185-35-3737 FAX 0185-35-3080	

◇原稿募集◇

現在連載中の「セピア色の写真館」「ふるさと自慢～私のお気に入り～」の原稿を募集しています。

「セピア色の写真館」：写真を中心に思い出を語って頂いています。卒業写真の中から、選んで頂いた回もあります。クラブ活動で、記念に撮った題材もありました。

「ふるさと自慢～私のお気に入り～」：各支部の地域の、観光案内にないような自慢出来る“もの”，文化財でも、食べ物でも、マニアックなものでも各支部長さんをお願いして、題材と執筆者を推薦して頂いております。

現在は担当委員が、原稿と写真を提供していただけたら、又、お願い出来る会員のいる支部の支部長に依頼したり、セピア色の写真を先に探し出して、原稿を書いていただけたら、又、写真の有りそうなクラブのOB等に依頼しています。

そのため、考えられる範囲が限られてしまいます。いずれの欄も、写真が中心になりますので、文章はそれほど多くなくて済みます。個人としてでも投稿を受けます。積極的に写真と原稿のご提供をお願いいたします。(但し、会員に紹介出来る内容と編集委員会に諮ります)

【同窓会事務局までご連絡下さい】

東京地域支部連合会

新年交歓会

1月19日(土)、午後6時30分より、京王プラザホテル本館4F「花の間」において、193名の会員と多数の来賓を集め、恒例の新年交歓会が開催された。司会の森岡俊介専務理事により、矢崎秀昭副会長が紹介され、開会の辞が述べられた。つづいて服部玄門会長の挨拶では、冒頭で来賓が例年より少ないことについての説明があった。これは昨年の事件について厚生労働省より厳しい圧力があり、学校および法人関係者は出席を辞退するとのことだった。これに対し、東京地域支部連合会として学校や法人からの信頼を回復し、会員の協力を得て、本会事業を継続していきたいとの挨拶があった。

次に来賓の挨拶があった。はじめに大山萬夫東京歯科大学同窓会会長が壇上に立ち、昨年11月同窓会評議員総会において同窓会会長に選出された旨挨拶があった。また、「昨年の事件につきましては国民の皆様・歯科界の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。執行部一同お詫びと反省をかねて医の倫理を規範として皆様の納得頂ける様対応したいと考えております。一方同窓会本来の活動につきましては一度原点にもどり、会則による目的である会員の親睦・福祉そして大学への支援を主体にと考えております。来るべき平成22年の120周年記念祝賀式典の成功にご協力致したい。皆様の格段のご理解・絶大なるご支援を賜りたい。」と述べた。

唯一、学校からの出席者である柿澤 卓水道橋病院長からは、学校関係者が出席できないことのお詫びがあった。また、日頃の患者紹介等の協力への謝辞と水道橋病院症例報

告会の案内があった。さらに、大学は平成22年に120周年を迎えるが、その記念事業の一貫として、大学機能を水道橋に回帰する計画が持ち上がっているという話もあった。

都歯からは浮地文夫東京都歯科医師会副会長の挨拶があり、未入会員対策としての二種会員B支部制度が順調に推移していることや全国歯科保健大会が東京都で開催され、大成功裡に終わった等の会務報告があった。昨年の事件については、現在裁定審議委員会において審議中であるとのことであった。

大曾根正史東京都歯科医師連盟会長からは、昨年の石井みどり氏参議院当選の謝辞と「現在ロビー活動が活発におこなわれ、医療費プラス改定に役立った」との報告があった。また、「我々は何も恥じることはない。自信を持って取り組もう。」との新年らしい檄があった。

その後、東京地域支部連合会新役

員20名の紹介があった。

平成19年度受章(賞)者の顕彰では、顕彰者を代表し、上野真人先生よりご挨拶をいただいた。

鳴神保雄相談役の乾杯で、懇親会が始まった。途中で、新任の国保審査員1名、社保審査員3名の紹介があった。また、田中秀夫東京都歯科医師会会長の訪問があり、年頭の挨拶があった。懇親会は和やかな雰囲気の中に時が経ち、高橋義一副会長により閉会した。

(山 滋 記)

「平成19年度受章(賞)者」

(敬称略)

厚生労働大臣表彰

上野真人(中野)

文部科学大臣表彰

田中道章(日本橋)

東京都功労者表彰(都知事表彰)

浮地文夫(八南)

川本 強(葛飾)

尾上 暉(板橋)

社団法人日本歯科医師会会長表彰

亀谷博昭(向島)



埼玉県支部

新年会開催

平成20年1月27日(日)、浦和ワシントンホテルにおいて東京歯科大学同窓会埼玉県支部新年会が開催されました。

役員改選のため成田賢二支部長を筆頭とする新役員にとって初めての催しとあって、51人という大勢の同窓が新年のお祝いに集いました。

まずは新幹事長の駒橋邦雄先生の司会で幕が開き、副支部長の粟生田友三先生の開会の辞、成田先生の支部長挨拶と続き、同窓会会長の大山萬夫先生からは同窓会の最近の動向、東京歯科大学副学長の井出吉信先生からは大学の水道橋移転を含めた今後の方針などを交えてご挨拶をいただきました。そして埼玉県歯科医師会からは副会長の小杉国武先生よりご挨拶いただきました。また、埼玉県立大学教授の高久 悟先生、

東京歯科大学教授の田崎雅和先生にもご出席いただきました。

諸報告の後、前支部長で埼玉県歯科医師会監事の増田紀男先生の乾杯で祝宴となりました。楽しく歓談の

後、新年会恒例のビンゴゲーム大会で一喜一憂、皆様それぞれお土産を手に入れました。楽しいひとときも瞬く間に過ぎ、校歌斉唱の後、副支部長の馬橋亟男先生の閉会の辞にて再会を誓いつつお開きとなりました。(海野 智 記)



山梨県支部

快晴に恵まれた平成19年12月1日(土)午後、山梨県支部定時総会が甲府市の古名屋ホテルにおいて開催された。大森浄二副会長の開会の挨拶につづき小屋忠嗣支部長が、今回で任期満了となる執行部の締めとして、「これからも会員同士楽しく集い合える会でありたい。そのために、これからも1人でも多くの会員の出席を願いたい」と挨拶した。来賓挨拶では、我々の会員であり、かつ同窓会本部の監事である金山公彦先生より本部の現況と活動内容について報告をいただき、また東京歯科大学教務部長・歯科理工学教授の小田 豊先生からは、国家試験、大学入試そして大学内での研究の現況等をお話しいただいた。次に過日、旭日双光章を受章された金山公彦先生のご功績を称え、記念品が贈呈された。

議事に入り、平成20年度の事業計

画や予算案等が上程されたが、全て執行部の原案通り可決承認された。最後に新支部長に選任された長久保文夫副支部長より、「会員相互の親睦を図ることは、組織としての団結力を高めることに外ならない。現執行部の方針を新年度も踏襲し、さらなる発展を期したい。」と、力強い所信が述べられ、総会は無事終了した。

その後、東京歯科大学有床義歯補綴学講座主任教授の櫻井 薫先生より、「患者が満足する総義歯をつくるには2007」と題したご講演をいた

だいた。臨床で明日からすぐ使えること、ゴシック・アーチに対する考え方と注意点そして睡眠中のブラキシズムに対する考え方等幅広くかつわかりやすくお話をいただき、会場からも多くの質問が出て、大変有益な講演であった。

午後6時からは懇親会に入ったが、来賓の先生方も交え、みな胸襟をひらいておしゃべりに熱中し、楽しい一時を過ごした。その中で特に、ビンゴ大会で小田 豊先生が一番高価なデジカメをゲットされて帰京されたことを最後に記して、支部報告とさせていただきます。

(三木正夫 記)



愛知県支部

平成20年度第1回役員会

2月3日(日)16時30分より、名古屋サミットホテルにて牧野健司新会長のもと改選された新役員が集まり、第1回の役員会が開催された。

成瀬専務理事の司会進行にて進められ、山田副会長の開会の辞に続き、牧野会長が次のように挨拶を行った。「昨年末、役員就任を依頼したところ、快くお引き受けくださり感謝している。この2年間よろしくお願ひしたい。神谷前会長が同窓会とはどのようにやっていくべきか色々討論された結果、①和と親睦をもって血闘イズムを引き継ぐこと、②東京歯科大学の存在をアピールしてゆくことの2点であった。さらに今期は、③実務的に“会計”の立て直しを実行してゆく。数年前より共済会計の破綻が危惧されていたが、一般会計も切迫している。従って会計検討委員会を設置して、早急に一般会計・共済会計の立て直しを図っ

てゆくので、ご協力願ひたい。」

続いて各担当役員より、平成20年度事業計画にそった事業予定の報告、河合俊輔先生ご令室様への黙祷、会計状況悪化対策のため会計検討委員会の設置、若い先生の意見を反映するよう青年委員会設置、本部同窓会副会長に神谷龍司先生就任等が報告された。

議事として、平成19年度会計決算(一般・共済・医政対策基金)の承認を求める件が可決承認された。

協議では、9月14日(日)に開催される平成20年度東海地域支部連合会総会(静岡県当番)への出席、平成21年度同総会(愛知県当番)の準備について話し合われた。

その他、夫馬・橋本常任理事よりビスホスホネート系薬剤と顎骨壊死についてのレクチャーを受けた。

第2回役員会の開催を5月18日(日)と決定し、穂積常任理事の閉会の辞にて終了した。

平成20・21年の新役員は以下のとおり。

会長・牧野健司(S43)、副会長・井上好平(S43)・山田 有(S46)、専務理事・成瀬 健(S50)、常任理事・穂積良治(S44)・夫馬眞也(S44)・惣ト俊明(S54)・青木宏道(S57)・橋本雅範(S53)・太田博司(S52)・河野幸壺(S51)・長谷部雅志(S56)・辻川雅介(S51)、理事・竹内博之(S47)・中川重樹(S52)・西村臣史(S56)・澤 政樹(H1)・鈴木祥夫(S55)・伊藤博之(S55)・鈴木正彦(S61)・小関健司(H2)・前岡一夫(S55)・奥平紳一郎(S56)・波多野耕治(S58)・小出直弘(S60)・不破金好(S58)・湯口富保(S63)・静間祐一郎(H7)・平野義雄(S60)・鈴木裕仁(H2)・杉浦正人(S50)・竹内英樹(S59)・瀧 昌弘(S63)・白岩克規(H2)・丹羽克誌(H4)、監事・神谷龍司(S40)・山本芳隆(S41)・藤城鐵英(S41)

(長谷部雅志 記)



岡山県支部

平成20年度支部総会

岡大永井・菅原両教授退官壮行会

平成20年度の岡山県支部総会が1月13日(日)、岡山プラザホテルにおいて開催された。全会員91名中50名の参加があり、佐藤征紀支部長(昭43卒)の開会の辞と挨拶で始まり、議長に松井一成先生(昭42)を選出した。続いて佐藤支部長より本部総会並びに評議員会の報告があり、昨年の東京支部連合会中心の不祥事と、それに関する同窓会本部の対応と大山新同窓会長選出の経過を説明された。各部の諸報告及び物故会員へ黙祷を捧げ、議事へと移った。平成19年度会計決算、平成20年度会計予算が承認され、支部会費の引き下げ(24,400円→22,000円)に伴い、更なる緊縮財政が促された。二期勤められた佐藤支部長に代わり、新支部長に斎藤治典先生(昭44)が選出され、伊丹富明先生(平16)の入会が承認された。協議では、今年度の夏に行われる支部大会の予定が報告され、原武仁日歯監事・岡山県歯連盟会長(昭44)から日歯、連盟の報告の後、総会は終了した。

次に、来賓に岡山大学より永井教之教授(昭42)、竹居孝二教授(昭60)を迎え、集合写真撮影の後、恒例の新年宴会となった。今年3月に岡山大学を定年退官される永井教授、菅原利夫教授(昭43)の壮行会も兼ねて行われた。菅原教授は所用で出席されなかったが、永井教授の挨拶を戴き、米寿〔山口貢先生(昭16.12)、的場勝先生(昭19.9)・喜寿〔奥欽也先生(昭32)、奥信子先生(昭32)〕の祝賀会が開かれ、記念品が贈呈された。その後出席者が大いに懇親の情を深め、情報交換をし、校歌斉唱し閉会となった。終宴後も、日の高いうちから二次会へと移り、夜更けまで懇親に興じた。

●永井教之教授

東歯大大学院修了後、東歯大口腔病理学助教授を経て、昭和56年4月岡山大学歯学部病理学講座教授就任。平成14年4月歯学部長就任(～平成16年3月)。

●菅原利夫教授

大阪大学大学院修了後、大阪大学歯学部口腔外科学助教授を経て、平

成9年8月岡山大学歯学部口腔外科学第一講座教授就任。

なお、岡山大学には他に、歯学部口腔外科学第二講座に佐々木朗教授(昭56)、医学部生化学講座に竹居孝二教授が在籍で、ご活躍中です。

岡山県支部の主な年間行事

- 1月 総会・新年会
- 2月14日 高山紀斎先生ご供養祭
- 7月 支部大会
- 8月 在校生激励会
- 12月 忘年会
- 毎月14日 例会
- 年間5～6回 学術研修会
- 随時 社保講習会、キャンプ、ゴルフ大会、旅行
- 年1回支部会誌発行

(中西史彦 記)



三重県支部

定時総会

平成20年3月9日 津市「ホテルグリーンパーク津」にて総会が開催されました。今回は同窓会本部より神谷龍司副会長を来賓に、学術講演会講師に水道橋病院口腔外科高野正行准教授をお迎えしました。神谷先生は昨年まで隣県愛知の同窓会長をしておられて昨年の同窓会の諸問題へのご対応などの話も交え、本部報告をして頂きました。

その後議事にうつり、議長に武藤先生を選出し、まず宮田支部長より評議員会並びに東海地域支部連合会役員会の報告をしていただき、庶務担当の北野より昨年度の行事等の報告の後会計担当の金子先生より昨年度の決算、今年度の予算案ならびに本年度の共済会計について、さらに会員病気の際の本部会費の減免制度について丁寧な説明がありました。三重県支部は会員の年齢構成が高齢化してきており、昨年に1名、今年1月に3名の会員の訃報に接し、今後の会務運営はいろいろ難しくなっていくようです。今年は役員任期が切れるため新支部長の選出が最後の議事でしたが、引続き宮田先生に支部長をお願いすることになりました。

総会終了後午後2時すぎより演題「口腔外科小手術のワンポイント」で学術講演会が開かれました。講師の高野正行先生には抜歯、局所麻酔法、縫合法、救急時の対応、インプラントと骨移植、顎骨延長術、抗菌剤の使用法、BP（ビスホスホネート）製剤起因の顎骨骨髄炎について

貴重な症例を含め数多くのスライドを供覧していただきました。先生の講演は穏やかな語り口ながら基本手技について一つ一つ要所を押さえた素晴らしい内容で、会場からもたくさん質問が出て大変充実した講演会となりました。

午後4時より懇親会となり、和やかに楽しいひと時を過ごし午後6時校歌を斉唱しお開きとなりました。今回の総会は会員74名のうち19名が出席しました。今回の参加者の中で1番若い先生でも卒業15年を経過されています。総会当日の朝に会場近くで列車事故があり、交通機関に乱れがあったため会場到着にご苦労された先生もいらっしゃいました。

出席者 寺本康郎、山際貞男、武藤章美、大橋隆道、宮田保、坂井清、坂井治、加藤誠康、

大矢孝臣、吉田正、吉田穂積、高森幸生、宮崎弘隆、大川剛生、小林寿、北野晋、金子淳、中西以穂、杉山直人

(北野晋記)



ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

札幌自慢？

北海道

お国自慢と言われて、はたと困った。2月のさっぽろ雪まつりや、6月のヨサコイ・ソーラン祭はあまりにも有名で、今更ご紹介するまでもないだろう。サッポロビール園も大倉山ジャンプ台も時計台も観光スポットだが、これより上がらないのか

と聞かれると自信がない。おいしい物はたくさんあるが、北海道の食べ物飲み物であって、札幌のそれではない。クラシック音楽ファンなら、パシフィック・ミュージック・フェスティバル(国際教育音楽祭)やら、響きにおいてサントリーホールを凌

駕するという札幌コンサートホールやら、札幌交響楽団か。美術館に芸術の森。バレエも盛んだし、国際スキー・マラソン大会や、札幌マラソン・北海道マラソン、自転車のツールド北海道も有名だ。野球とサッカーとバスケットボールのプロチームもある。

しかし、札幌の本当の魅力は、都市型の文化とサービスを楽しむつつ、豊かな四季の自然を身近に楽しめることではないだろうか。車で30分も走れば、森や田園が迎えてくれる。1時間から1時間半で、ゴルフ場やらキャンプ場がよりどりみどり。そこらじゅう温泉だらけだし、川でも海でも釣りができるし、いろんな野生動物に出会うこともできる。

札幌の水道水は水質の良さが自慢で、塩素を都市部の標準の10分の1しか加えていない。歴史の浅い分、都市の整備が進み、日本の大都市の中では真っ先に下水道普及率100パーセントを達成したと聞いている。スギ花粉は少ないし、中国の大気汚染もあんまり来ない。温暖化の影響で雪が少なくなったのもうれしい。台風は弱くなってから来るのでさほど怖くない。住むには本当にいいところなのだ。

ただし、歯医者に住むのにいい街という訳ではない。北海道大学と北海道医療大学から、毎年大勢の歯科医師が出てきてこの街に滞留する。それに、190万都市札幌の膨張は、農業、林業、水産業、石炭産業などの不振のために北海道の各都市が疲弊した副産物なのだ。それを思うと申し訳なくて、札幌の自慢などやはりちょっとはばかれるのである。

(札幌支部 S57卒・島田清純)



上：雪に埋もれるサッポロビール園。1階の半分の高さまで積雪。つらい撮影であった。

下：有名な時計台。観光客が途切れることがない。

クラス会だより

クラス会開催日程

五十一期会（昭和20年9月卒）	と き	平成20年6月1日（日）午後5時集合
	と ころ	千代田区神田淡路町・ 東京グリーンホテルお茶の水
富 己 会（昭和40年卒）	と き	平成20年10月12日（日）午後5時
	と ころ	新宿京王プラザホテル
踏 志 会（昭和41年卒）	と き	平成20年11月1日（土）・2日（日）
	と ころ	広島県および愛媛県
第七十九期会（昭和49年卒）	と き	平成20年7月20・21日
	と ころ	静岡県伊豆方面
新 葉 会（昭和63年卒）	と き	平成20年9月20日（土）午後5時30分～
	と ころ	水道橋・東京ドームホテル42F シリウス

六喜会だより

昭和33年卒

御無沙汰をしております。申し訳
ございません。先生方にはお元気に
お越しのことと存じます。

さて六喜会総会ですが、来る平成
20年9月18日（木）、東京プリンス
ホテルにて開催する運びとなりまし

た。詳細は後日、連絡致します。
先生の御予定には是非加えておいて
下さい。 幹事会

管弦楽団 OB 会

訂正とお詫び

創立80周年記念演奏会に参加さ
れた OB は以下の方々です。

（敬称略）

Vn：多胡 彬、矢崎洋子、荻倉 純、
川口 充、山本勇人、大田 恵、
豊田泰子、Va：鏡 寛昭、小川 学、
岡崎 真、酒寄孝治、Vc：和光 衛、

武田 瞬、桃木祐美子、Fl：関根
亜里紗、Ob：駒橋 邦雄、Cl：
水野剛志、林 郁恵、Fg：板垣
光信、矢崎宣利、Hr：野津秀郎、
島田隆光、下島隆志、Trp：鈴木
祥夫、大串圭太、木村 愛、
Trb：加藤広之、勢島 典、遠藤
大輔、Tub：田中大平

前号で山本勇人先生のお名前を
掲載しなかったことに対し、この
場を借りて深くお詫び申し上げま
す。また、当日演奏に参加せず裏
方として演奏会を盛り上げてくれ
た多くのOBの先生方に深く感
謝いたします。（田中大平 記）

十 期 会

昭和37年卒

例年総会は6月に行われておりましたが、秋のほうが気候が良いだろうということで、平成19年十期会総会は10月27日(土)鳥取県米子市皆生温泉の皆生シーサイドホテルで開催されました。はじめての山陰での開催ということもあってか51名という多数の参加者がありました。しかし、残念ながら数日続いていた好天気が前日からあいにくの荒天となってしまいました。それでもゴルフ組は朝から大山平原ゴルフクラブでプレー、雨まじりの風が吹く悪いコンディションの中、金山公彦君が優勝しました。一方の観光組は古代出雲歴史博物館や出雲大社を訪れ、別名千鳥城と呼ばれる松江城や小泉八雲記念館などを見学、楽しい一日だったようです。

総会は夕刻より飯塚正人君の司会で始まり、高江州義矩君議長のもと山内英徳会長の挨拶、世話役岡本

日出夫の歓迎挨拶のあと議事に入り、平成20年の総会は沖縄で開催することを決定、添島義和君の乾杯の音頭で懇親会を開宴しました。

冬の山陰の味覚松葉ガニの解禁には2週間ほど早かったため、少し味が落ちるもの同じずわいの紅ガニや山海の珍味で宴は大いに盛り上がりました。二次会もほとんどの人が参加してカラオケで皆さん大ハッスルでした。

翌28日(日)は前日とは打ってかわって最高の秋晴れとなり、バスで紅葉がいまいちであったが、国立公園大山の中腹を通って、国内最大スケールのフラワーパークとっとり花回廊へ向い、花の絨毯の中で一服しました。ついで米国の日本庭園専門紙で5年連続庭園日本一に選ばれている足立美術館を訪れ、一万三千坪の広大な庭園や、展示してある横山大観の絵をはじめ数々の近代日本画

や北大路魯山人、河合寛次郎の陶芸などを観賞しました。

米子空港、JR 米子駅で皆さんを見送り、やっと肩の荷が降りた気分でした。

十期会の皆さん、次回は常夏の沖縄でお会いしましょう。

出席者は、中井一仁・陽子、山田洋文、梅津文夫、松山美念子、田中久雄、飯塚正人・玲子、山内英徳・蘭子、佐々木協子、小坂剛也・登喜、皆葉壽樹、初鹿繁和・京子、堀江典子、橋本美代子、石井秀人・初音、岩淵徹、茂木洋子、花上弘昭、野間弘康・歌子、梅田尚夫、関口威身、矢内融、杉戸 勲・寛子、横田秋三朗、瀧 義孝・瑞枝、山脇俊男・つや子、永井栄子、廣川裕祐、金山公彦・良子、金山圭子、小室 甲・明子、高梨玲子、岸田 允、添島義和・峯子、山崎頼任、高江州義矩、岡本日出夫

(岡本日出夫 記)



歯 士 会

昭和38年卒

平成19年度歯士会総会は、秋晴れのもと10月7日～8日の両日東京にて開催されました。ここ数年は全国各地の持廻りでの総会となっておりますが、我々も卒後半世紀近くになり、来年にはほとんどの会員が古希を迎える年齢となり、往時の水道橋での学生生活を振り返り、会員それぞれに青春の思い出がある水道橋に近い「山の上ホテル」で5年振り30名の出席者でした。

会場のホテルは当時の面影がほとんど失われず残っており、参加者は皆タイムスリップして昔を懐かしんだことでした。当日は午後4時から総会に続いて母校より井出吉信副学長を講師に招いて大学の学生教育及び学校運営の現況及び将来に関して貴重な講演を頂き、母校の将来に一段の希望を持った次第です。その後懇親会に移り平成18年秋の叙勲に輝やいた武石醇作君の御祝い報告

及び記念品贈呈に続いて、同君の乾杯の音頭で幕開けとなりレトロなホテルでの懐かしい語らいに時を忘れた宴席となりました。

特にこのホテルで人生第二の出発式を挙げた久保田君夫妻にとってはひときわ思い出深いことだったでしょう。席上マイクを通して全員から近況報告及び会に対する意見提言を頂いた中で、久し振りに参加のカナダ在住の鈴木 信君より大学教授退任後時間に余裕が出来たので、近い将来カナダでの総会開催はいかかとの提言があり、会としても実現に向け前向きに検討しようとさらに盛り上がりました。

終りに次回開催地京都の荒木君から日程及び京都の紹介を頂き、閉会となりました。二次会は場所を地下のBarに移し夜遅くまで旧交を温め合った次第です。

翌日は最も新しい東京の町に最も

古い町を体験すべく、バスツアーにて昨年六本木にオープンした国立新美術館及びミッドタウンに向け出発しました。時はまさに芸術の秋、美術館では本邦初公開のフェルメール「牛乳を注ぐ女」とオランダ風俗画展の開催中で、十分に名画を鑑賞しミッドタウンでウィンドショッピングを楽しんだ後、古い竹まいが残っている神楽坂を訪れ、老舗の鳥茶屋にて名物の「うどんすき」を昼食に味わい、石畳の小道あふれる町の散歩をしばし楽しみ来年の総会での再会を約して東京駅にて散会となりました。

20年度の総会は古都、京都での開催となります。今年参加が叶わなかった会員の皆様にも奮って参加いただけますよう在京幹事一同心からお願い申し上げまして報告とさせていただきます。 (中川武幸 記)



弥 生 会

昭和54年卒

平成19年10月、末石研二君がめでたく東京歯科大学歯科矯正学講座主任教授に就任されました。私たち第84期弥生会からは、歯科補綴学佐藤 亨教授、口腔外科学柴原孝彦教授、歯内療法学中川寛一教授、昭和大学歯学部口腔組織学の故佐々木崇寿教授につづき5人目の教授就任、実に4人目の母校主任教授誕生となりました。末石君には昭和54年矯正学講座に特別研究生として入局以来、臨床一筋地道に歩まれ、平成17年の助教授就任から僅か2年後の教授ご就任は、私たち同級生にとりましても大きな喜びと誇りです。

去る2月23日(土)19時、東京ドームホテルにて、その末石研二教授を祝う会が開催されました。生憎の春

一番による暴風荒天にも拘わらず、全国各地から同級生約70名が参集し、鳩貝尚志君の開会の辞に始まり、物故者への黙祷、弥生会代表今村嘉宣挨拶と進みました。末石教授からは「最近の歯科矯正の動向」と題した特別講演を頂き、生い立ちから現在の業績まで、貴重な症例写真と共に興味深く拝聴いたしました。佐藤教授の音頭で乾杯となり、にぎやかな歓談へと移りました。遠路宮崎から駆けつけた安部佳世子さんによる末石ご夫妻への花束贈呈の後、中川教授、柴原教授、高瀬保品准教授、堀田宏巳准教授他、同級生ならではの祝福と激励の言葉が続きました。感無量の末石教授謝辞では、良き夫、父親の顔も垣間見ら

れ、傍らに寄り添う泰子夫人のお姿に、ご出世の陰に内助の功ありと、つくづく感じておりました。副代表三友和夫君の閉会の辞、そして最後に一同校歌を合唱し、万歳三唱でめでたくお開きとなりました。

4人の教授はじめ母校在籍の同級諸先生には、変革期にある大学の柱、中核として、益々激務の日々になられることでしょう。くれぐれも健康に留意されて、スクラム組んで行かれますよう祈っております。

そして、いつも会務を引き受けて下さっている今村嘉宣代表、三友和夫副代表お二人に、この場を借りまして心から感謝申し上げます。また来年には、卒後30周年の会を企画して下さいとのこと、どうぞよろしく願いたします。

(片山敦子 記)



翔 蜻 会

昭和55年卒

本年度のクラス会が、長崎において11月24日(土)に行なわれた。地方開催は約10年前の札幌以来2度目である。準備を進めるうちにこれは大変な事を引き受けたものだと後悔したものだ。マンパワーの不足、交通の便の悪さなど次から次へと難題にぶつかる始末。果たして何名の出席があるか心配していたところ、会員28名、家族2名の計30名の申し込みがあり、ひとまず安心。日程を遠方の会員も出席できるように3連休にしたのだが、後楽シーズンとこの日は障害者歯科学会(約2千人規模)があり、希望する飛行機のチケットがうまく取れず、料金も高かった事に対し申し訳なかった。

23日の夜、10名の会員と前夜祭と称して居酒屋で宴会。その後男性のみで2次会へ。(ここでつい飲み過ぎたのが翌日の体調不良に繋がるとは不覚であった)

24日は長崎市内観光組、ゴルフ組、自由行動組に分かれる。私は観光組の担当で、10時にホテルを出発。「出島」「大浦天主堂」「グラバー園」「長崎歴史博物館」を回って3時半過ぎに解散。

思案橋にある料亭「松亭」にて午後6時より総会を始める。札幌から参加の杉山 裕君を議長に選び、庶務報告、会務報告があり、次回のクラス会を3年後の平成22年に卒後30周年と母校の創立120周年に併せて大々的に行う事に決定。

終了後部屋を移して懇親会へ。今回は学生時代に大変お世話?になった長崎大学小児歯科学講座准教授の細矢由美子先生をお招きして、まずは写真撮影。

「松亭」は長崎独自の卓^{しっぽく}伏料理が有名で、挨拶に先立ちまずはお鱈(お吸い物)をいただく。その後村山会長、細矢先生の挨拶が続いて、北海道旭川から参加してくれた三浦君の乾杯の音頭で宴は始まった。抽選大会で景品の当たった会員に近況報告などをしていただいているうちに、あつというまにお開きの時間になり、舛添厚生労働大臣に似てきた地元熊本の春野君の一本締めにて終了。その後一人の落伍者もなく2次会のパーティー会場へ。ここでは我がクラス会の宴会部長佐久間君に進行を任せ、あとは皆時間の許す限り飲んで歌っての大騒ぎ。11時



過ぎに解散となりましたが、飲み足りない10名程度は3次会へ。

翌日は朝早く飛行機で帰る者、学会へ参加する者、個人で観光をする者と自由行動になりましたが、この3日間晴天に恵まれ、大きなトラブルもなく無事に終えることができ幹事として本当に安心しました。最後に準備のサポートをしてくれた女房に感謝します。

(広田明彦 記)



黎明会

昭和57年卒

卒後25周年記念クラス会

平成19年10月27日(土)、28日(日)の両日、記念クラス会を開催した。節目の会なので前日から盛り上がり、ラクーアビル内の和食店にて前夜祭を設けたが、当日は季節外れの台風が関東に上陸し、開会時間の午後7時は猛烈な風雨に見舞われた。それでも30名が集結し、二次会に繰り出す頃には雨も上がり、野嶋君の紹介で水道橋裏手の台湾屋台料理店で、年齢も翌日の総会の事も忘れて夜更けまで大いに盛り上がった。翌日の日曜日は台風一過の秋晴れで清々しい朝を迎えたが、前日の二次会組の頭の中はまだ嵐の真っ最中だった。そんな中、午前11時より血脇ホールにて総会を開催し、56名の出席者の下、会長の武藤君挨拶の後、物故会員の黙祷、坂本君の議長で、久保君より大学の現況等庶務報告、西山君の評議員報告、山倉君より会計報告があり承認された。

次に議事に入り、会費を年会費制にする事、開催時期を5の倍数の周年行事を必ず行い、その間に地方開催等を入れる事の提案があり、いずれも可決された。次に記念講演に移り、ともに同級生の久保周平君から

「外傷歯への対応」、高野正行君からは「抜歯で困った時のヒント」の演題でご講演をいただいた。一人30分という過酷な時間設定の中、お二人ともコンパクトに必要なエッセンスを詰め込んでの講演会はさすがと言う他無く、同級生として誇らしくも感じられた。

午後1時から場所は東京ドームホテルに移して懇親会が開催された。ここでは学年副主任の根岸先生よりご挨拶をいただいた後、前日より北海道から出席の村上(谷口)奈津子君、九州から永友秀侍君御兩名の音頭で乾杯となった。このパーティでは石塚君率いるjazzカルテットが登場し、学生時代さながらマイルス並みのトランペットを披露してくれた。和気藹々と昔話を花を

咲かせ、最後に石塚 band の演奏で東歯大校歌を歌い、次期の開催地千葉県を代表して齋藤 守君の挨拶を以って閉会となった。帰りには全員に根岸先生より王子名物の扇屋の玉子焼きのおみやげまでいただいた。有難うございました。尚この会が催される直前に、来賓としてご招待を予定していた学年主任の瀬端正之先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(鈴木雅幹 記)



自動車部 OB 会

新会長に浦井照彦先生（昭和43年卒）が就任し、ますます活動が盛んになってきている轍会（自動車部OB会）ですが、第8回のミーティングが平成19年11月10日（土）・11日（日）の両日にわたって開催されましたのでご報告いたします。

現役部員との交流を密にするという趣旨のもと、10日午後に千葉キャンパスに集合し、自動車部のガレージを見学しました。自動車部が所有する車について説明を受けたり、ガレージでの作業内容について質問したりと、現役部員の活動の一端を垣間見ることができました。現役部員にとっても、ガレージの建設にまつわる貴重な話が聞ける良い機会となったと思います。自分が現役時代に入り浸っていたときは違って、ガレージの中が整理整頓されていたのが印象的でした。OB会による見学の副産物でしょうか。

見学の後は稲毛海岸駅の近くで懇親会が開かれ、現役部員との交流を深めることができました。昨今の歯科大生を待ち構える進級・卒業・国家試験合格という高いハードルはOBの間でも広く知られているようで、「部活動はそこそこに」という自動車部OBらしからぬアドバイスもありました。OB会のバックアップが功を奏したかどうかは分かりませんが、例年になく多くの新入部員を迎えることができ、自動車部と自動車部OB会のますますの発展が感じられる会になりました。近くで活躍しているOBも診療の後で続々と駆けつけ、二次会は部屋

に入りきれないほどの盛況となりました。

当日はヴェルシオーネ若潮（旧若潮会館）に宿泊し、翌11日は市原市の南千葉サーキットを借り切って走行会が開かれました。自称「現役バリバリ」のメンバーが集まる轍会ミーティングだけあって、熱い走りを見ている方がヒヤヒヤし通しでした。気持ちは現役時代と変わらないOBですが、体力は現役部員には到底およばず、後半になるとハンドルを後輩に預けて運転指導にあたる姿も見られました。現役部員が用意してくれた熱いお蕎麦で体を温め、記念撮影をして解散になりました。

これからも、自動車を通じて、現役部員との交流を深めていく予定です。

参加者氏名（順不同）

山本啓介、白井久雄、大岡紀一郎、関谷和夫、浦井照彦、河村正夫、須田昇、角田正健、柳澤孝彰、山田英夫、奥平紳一郎、鈴木潔、小筆正弘、根岸史郎、田崎裕紀、小林信之、櫻井善明、堀雄一、中村潔、市原雅也、小川大輔、田辺耕土、村瀬俊彦

（会計担当・平成5年卒・

根岸史郎 記）



すいどうばし

クラス会の行方？

正木 光 児（昭和20年9月卒）

同窓会長以下殆ど総ての役員が変わり、2010年には創立120年の我が国最長の歴史を持つ東京歯科大学同窓会が、前代未聞の混迷を続け崩壊の危機迫る医療界に帆を揚げて出港した。祝うべき事柄と苦しむ事柄を合わせ持つ今、私たち同窓会員はどのようにしてこの母船の航行を助け、見守ったらよいか…。

ずっしりと分厚く重い同窓会会員名簿を手にして同級生の名前を見つけようとする時、何と始めから4分の1の頁になっているのを見て愕然とする。クラス会としての名称が出来た大正元年10月卒業の明正会から平成20年3月卒業のクラス迄何と113組のクラス会が存在するが、毎年生存会員の氏名が減り、逝去会員の頁だけが増えて行き、いずれは生存者無しのクラスが増えるが、同窓会がある限りクラス会名は厳然として存続して行く筈である。クラス最後の一人になるまでその誇りを矜持して大学及び同窓会を支えてゆく原動力となることを望みたい。

堅苦しい話しはさておき、加齢と共に体力の消耗が目に見えて甚だしくなり、毎年今後のクラス会をどうする……という議題が出るたびに『やる人がいる間はやって欲しい』という事でうやむやになってはいませんか。

会報に掲載されている先輩のクラス会便りを拝見するたびに、まだ開催しておられるという事に羨ましさなどのような方法で、という疑問と

が、萎え始めた脳裏を駆け巡る。いずれは会員に知らせる事もできず、まして出欠の返信を貰い参加人数を決めて会場に予約する……などはとても出来なくなるだろう。それが出来るようなら会は続けられる事間違いないのである。

そんな時どんな条件であれば何の連絡をしなくとも開催を続けられるだろうか？そこへ行けば誰かに会える！〔毎年同じ月の、同じ日の、同じ時間に、同じ場所で会い、誰が来るのかも解らないが、議題も報告も無くただ近況を話し合い雑談しながらまた会えるようにお互いに頑張ろう……〕と言って懐かしむ一時を過ごして解散する会合であれば……何年でも続けられるだろう。

こんな事を思ってこれに近い所を探し歩いた。

分かりやすく行きやすいデパート等のお好み食堂的な、ファミリーレストラン的な所なら……無い!!

最近のデパートは近代的に個々の老舗が店を構えて今時のグルメ嗜好に様変わりして私が望んだような通知や予約無しで集まれる所は無かった。いやーカ所あったが近い将来他のデパートとの合併問題が起きているので大食堂として存続し得るかどうかわからないというので、こうなれば生きているうちに無変更の連絡だけで済むかどうか分からなくなった。参加人数を連絡して予約出来る場所ならあちこちにあった!…

私たちのクラス会は去年まではそ

の様にやってくれるわけだったが今年からは懐石料理だけになるので人数の予約が必要になり急遽出欠を取って連絡する事となってしまった。

幹事に何か事故でも起これば来年以後のクラス会の行方が全く解らなくなってしまうことになる。

集合場所だけ決めて置き、集まった者がその場で探せばよいか時間的に不可能であろう。

そこで消え行かんとする老いたクラス会の集まりを存続するために、**◆クラス会の責任で半永久的に会場となし得るお店との固定約束が出来て、且つ連絡すべき会員の名簿を提出したクラス会に対して同窓会本部として毎年出欠の有無を取り人数を固定した会場へ通知して預けるような「係」があったら最後の二人になるまでクラス会の継続が可能なのは無いだろうか？**

勿論出席した会員からこの連絡用事務費は支払うものとする事は当然の事であろう。

老人達が集まり世界を論じ、日本を論じ、母校を論じ、昔を懐かしみ、若い者に希望を見いだして、声高らかに語り合っている姿を想像するとき、怒りを覚えるか、笑みが浮かべられるか。

大変な事であろうが、古い歴史のある大学同窓会としての誇りを長く維持して行きたいものである。

「合格祝と老人六歌仙と」

竹内 一 紀（昭和45年卒）

今年も母校合格者欄に同窓の子弟を見受ける桜花の時節です。家督継ぎの安泰を祝し、宴はミッドタウン辺りだろうか、合格祝は何かナ？…と、雀躍りのご家族を連想してしまいます。田舎暮らしの時代錯誤と失笑されましようが、羽織袴の誂え物が合格祝でした。母の同窓会がてら開業早々の東海道新幹線で京都の呉服屋へ向かうと、胸と背と袖に立葵が染め抜かれた五つ紋、羽二重の羽裏、胴裏は手描きの山水と洒落ます。帯は博多、袴は仙台平で、携えて更に小倉の祖母を訪ねます。朽ちかけた土塀を残す家屋敷は他人手になるが末裔を秘めた陣羽織を温存する。猩々緋の羅紗に縫い込まれた大きな戦紋と、まほろばの秋津が褪せても白い。祖母は合格祝と陣羽織を交互に着せ「少年老い易く学成り難し」と、診る身の心を論しながら袴を結んでくれます。

晴れ着姿を写す鏡台の脇のカレンダーに笑った。加齢による体の衰えから心の衰えと網羅するユーモラスな老人寸描の画賛は件の「老人六歌仙」です。我が意を得たりと暗誦し、「老いても子を従えて指図せり」……等と、弁え心無く補作する悪ふざけの七〜八歌仙(?)は痛快！ 筆者・仙厓義梵は書画の達人で難解な説法を□△○や絵や詩文に換えて真・善・美を説き続けた高僧、

軽妙洒脱でユーモアに富んだ味わいと権力におもねる事を嫌った生活は庶民に広く慕われたという。後年の出光美術館は義梵遺作に発祥して海外にも評価の由、南国九州に粹人と詠った義梵さんや、雪国に童と唄った良寛さん達は何を診たのだろうか。お歯黒や木製義歯の頃の古謡ですが、近年の老人問題を彷彿させます。

閑話休題、初雪の日に顔も潤覚えの都会の旧友から唐突な郵便物が届いた。五十年振りの再会を祝ってと書き添えられた、なんと義梵さんのカレンダー。家中で笑った長閑な宴の忘れ物が届いた思い。だが、あの日のピエロ役を知る者は瞬く間に私っきり。合格祝も東歯の卒業式に袖を通した程度、畳紙に包まれてひたすら惰眠を貪る。ふと、独りではなく肉親や巡り会った人、受け継いだ諸々と共に初雪を迎え、カレンダーを掛け替えてきたことに気付いた。日に日々の加速度を憶えること頻りで、画や英語の素養を身に廉を倒さず立って目礼で往生していった祖母にも贖いが湧きます。

嘲笑した「老人六歌仙」の有縁は露知る由もなかったが、母校に授かった天職を疎遠に三地域で三百有余名計の老人施設を民設する。同じ数だけの天賦と、喜怒哀楽の蓄積と、孤高のプライド、更に親族の絆

に向き合う感性の空間です。あれは人の仕上げに立ちはだかる難攻不落の砦なのか、「死にとうもない」と崖っ淵に手を掛ける義梵さんそのままに、やがて、己も花終いを迎えるのだろうか……と。いいえ、聖なる長寿の極意、輪廻の時空を超えても過客に心優しい諫めのメッセージです。「濟世・仁なり」「人間たれ」の校歌に信条でした。「すいどうばし」の青春も品位も秘めた守護神・合格祝に成熟を論されております。

[老人六歌仙] 仙厓義梵

- 一 志わがよる ほくろが出来る
腰まかる 頭が禿ける 髭白ふなる
- 二 手ハ振ふ 足ハよろつく 歯ハ
抜ける 耳ハ聞こへす 目ハ疎
ふなる
- 三 身に添ふハ 頭巾 襟巻 杖
目鏡 湯たんぼ 温石 尿瓶
孫の手
- 四 聞きたがる 死にとむなかる
淋しかる 心が曲かる 欲深ふ
なる
- 五 くどくなる 氣短になる 愚痴
になる 出志やばりたかる 世
話やきたかる
- 六 又しても 同じ咄に子を誉め
る 達者自慢に人ハ いやかる

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 44 卒	清水 琢	磨 (63歳)	20. 2. 3
武蔵野支部	〒180-0001	武蔵野市吉祥寺北町3-7-3	
●昭 16. 12 卒	杉田 道	弘 (88歳)	20. 2. 4
埼玉県支部	〒345-0036	北葛飾郡杉戸町杉戸3-2-3	
●昭 22 卒	佐藤 佳	弘 (82歳)	20. 2. 12
岡山県支部	〒700-0825	岡山市田町1-7-9	
●昭 26 卒	岡 駒	雄 (81歳)	20. 2. 10
丸の内支部	〒171-0022	豊島区南池袋3-24-20-205	
●昭 29 卒	浮谷	實 (78歳)	20. 2. 10
千葉県支部	〒272-0023	市川市南八幡5-3-16	
●昭 23 卒	岡村 嘉	道 (82歳)	20. 2. 8
滝野川支部	〒114-0023	北区滝野川7-30-13	
●昭 25 卒	渡辺 綱	男 (81歳)	20. 2. 14
富山県支部	〒938-0031	黒部市三日市3135	
●昭 42 卒	堀部 昭	美 (67歳)	20. 2. 16
愛知県支部	〒483-8276	江南市古知野町宮前20 説田歯科	
●昭 17. 9 卒	関 幸	一 (86歳)	20. 2. 21
横浜中央支部	〒220-0072	横浜市西区浅間町4-344-15	
●昭 13 卒	工藤 芳	之 (91歳)	20. 2. 22
大分県支部	〒879-1508	速見郡日出町平道2083	
●昭 8 卒	小早川 隆	幸 (96歳)	20. 2. 22
麻布赤坂支部	〒106-0044	港区東麻布1-9-16	
●昭 31 卒	飯塚 喜	一 (76歳)	20. 2. 29
世田谷支部	〒155-0033	世田谷区代田4-25-20	
●昭 13 卒	今岡 太	郎 (91歳)	20. 3. 5
岡山県支部	〒708-0013	津山市二宮2155	
●昭 41 卒	山本 光	之 (66歳)	20. 3. 11
山梨県支部	〒401-0013	大月市大月1-20-8	
●昭 42 卒	荒川	明 (66歳)	20. 3. 10
中野支部	〒165-0026	中野区新井4-16-2-309	
●昭 59 卒	納富 正	路 (47歳)	15. 9. 15
●昭 27 卒	村上 嘉	章 (81歳)	20. 2. 27
神奈川西湘支部	〒250-0004	小田原市浜町1-10-3	
●昭 34 卒	工藤 幸	男 (73歳)	20. 3. 17
青森県支部	〒030-0861	青森市長島4-11-1	
●昭 15 卒	小野寺	清 (89歳)	20. 3. 22
兵庫県支部	〒675-2233	加西市両月町27-1	
●昭 13 卒	佐竹 理	明 (91歳)	20. 3. 22
北多摩支部	〒190-0012	立川市曙町1-30-17	
●昭 34 卒	瀬高 良	一 (74歳)	20. 3. 26
新潟県支部	〒959-1502	南蒲原郡田上町田上横山丙2494-6	
●昭 27 卒	大角 陽	一 (80歳)	20. 3. 26
静岡県支部	〒421-0523	牧之原市波津754	
●昭 20. 9 卒	安倍 英之助	(85歳)	20. 3. 28
愛知県支部	〒470-0132	日進市梅森町新田135-295	
●昭 19. 9 卒	中村	實 (92歳)	20. 3. 31
秋田県支部	〒010-0921	秋田市大町4-3-14	

坂本眞喜君を偲んで

シチヤ会 (昭和48年卒)



昨年の11月19日に、坂本君は他界されました。

彼は卒業後、広島大学に10年間勤務され、その後、広島市内で開業しました。10年程前から視力を失いはじめ、診療から遠ざかるようになったそうです。胃癌、糖尿病、透析、後に歩行困難となり、自宅で療養していました。彼の闘病生活には、御家族の大変な力添えが

あったと思います。診療をしたいただという彼の希望がかなうことはありませんでした。しかし、御家族に囲まれていたことは、彼にとっては本当に良かったと思います。

正義感が強く、どこか反骨的な所がある彼は、背が高く、声が大きくて目立つ存在でした。電車に座っていて、何かあると、パット立ち席をゆずるような事を、自然としていました。彼は根っから、とてもやさしい男だったと思います。いつもニコニコしている感じでした。彼のホッペタがふくらんだような笑顔が、今

でも頭に浮かんできます。闘病中の電話から聞こえてくる彼の声は、昔と変わりありませんでした。声だけ聞いていると、元気では？と勘違いするほどでした。学生時代に、一級先輩方の卒業式で、彼が在校生代表の送辞を読みました。今思えば、あの声があったので彼が選ばれたのかもしれない。

年が明けて、小松君、小島君と私の3人で広島へ行きました。最後になりますが3人から坂本君へ「あの世で、又、一緒に遊ぼうな。」

(国分恒雄 記)

庶務日誌

3月

- 1) 理事会
 - 3月15日(土) 第2回理事会
- 2) 委員会
 - 3月4日(火) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 6日(木) 厚生部委員会
 - 10日(月) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 11日(火) 広報部委員会 (会報編集)
 - 12日(水) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 12日(水) 学術部委員会 (プログラム委員会)
 - 14日(金) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 17日(月) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 21日(金) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 24日(月) 学術部委員会 (企画会議)
 - 26日(水) 情報部委員会
- 3) 出張
 - 3月1日(土) 青森県支部総会 大山会長出席
学術講演会 講師・佐野 司教授(母校)
 - 1日(土)・2日(日) 全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会
 - 8日(土) 群馬県支部総会 大山会長出席
 - 9日(日) 三重県支部総会 神谷副会長出席
学術講演会 講師・高野正行准教授(母校)
 - 14日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業式
江崎副会長出席
 - 22日(土) 福岡県支部総会 江崎副会長出席
 - 24日(月) 新入会員オリエンテーション
 - 25日(火) 東京歯科大学第113回卒業証書・学位記授与式 大山会長出席
 - 29日(土) 山形県支部総会 大山会長出席
学術講演会 講師・金子 讓教授(母校)
- 4) 事業
 - 3月12日(水) 東歯関係日歯役員・代議員、都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会

4月

- 1) 理事会
 - 4月9日(水) 第2回常任理事会
- 2) 委員会
 - 4月1日(火) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 2日(水) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 2日(水) 保険部委員会
 - 4日(金) 総務部、学術部、広報部、情報部打合せ会
 - 7日(月) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 10日(木) 渉外部委員会
 - 11日(金) 広報部委員会 (会報企画)
 - 14日(月) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 15日(火) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 16日(水) 厚生部委員会ゴルフ大会委員会
 - 17日(木) 学術部委員会 (プログラム委員会)
 - 18日(金) 学術部委員会 (研修委員会)
 - 19日(土) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 24日(木) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 25日(金) 学術部委員会 (運営委員会)
 - 28日(月) 学術部委員会 (企画会議)
 - 30日(水) 情報部委員会
- 3) 出張
 - 4月4日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式
大山会長出席
 - 5日(土) 東京歯科大学入学式 大山会長出席
 - 19日(土) 宮城県支部総会 大山会長出席
- 4) 事業
 - 4月20日(日) 卒後研修セミナー〔実技セミナー(No.1 徹底的にSRP～歯周病専門医から学ぶグレーシー・キュレット～)〕
- 5) 監査会
 - 4月23日(水) 監査会

◆投稿規定

- (1) 原稿締切り
原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) 投稿字数
 - ① 「すいどうばし」欄(随想、詩、短歌、時評など)は、1編1,600字程度
 - ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。
 - ③ 「追悼」は、500字程度
- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。
なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (5) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。

◆へんしゅうこうき

★ セピア色の写真館 日本にサッカーがやってきたのは1873(明治6)年、英国海軍教官団が築地の海軍兵学寮で、初めてサッカーを日本人に伝えたといわれ、1896(明治29)年、高等師範学校に「フットボール」部が誕生して、日本各地にサッカーが広まっていったそうです。東京都立小石川サッカー場は1956(昭和31)年に国立競技場が新たに建設された年に東京の小石川にあった旧砲兵工場跡地に建設され、当時アジア競技大会を開催する目的で建設されたため国際試合や天皇杯も行われた場所だそうです。サッカー選手にとってあこがれの場所であったようです。今年にはオリンピックやワールドカップの予選もあり日本代表チームから目が離せません。是非頑張ってください。

★ 巻頭言 江崎先生ご苦勞様でした。今後も副会長として大山新体制をバックアップしてください。
皆がオープンな発言をしてその中で良い意見をまとめようとする、また、すべてを公開しようとする空気も感じられると言うことです。
何かが変わろうとする同窓会を感じられます。役員を知っていることはすべて会員が知り、会員の出来事はすべて役員が知ることになるように広報部も役立てればと思っています。

★ すいどうばし 「クラス会の行方？」の題名で昭和20年卒の正木先生より投稿がありました。
人数が減ったクラスはクラス会ができなくなる。そこでクラス会の運営を同窓会で管理してほしいというご意見でした。同窓会で企画、運営するというのも難しい面もあると思います。しかし我が大学は長い歴史のため全国あるいは海外にも多くの同窓生を輩出し、貴重な経験を持っておられる先生方も多くいらっしゃいます。掛け替えのない財産であると思います。同窓であればふらっと立ち寄る場所があり、若いも若きもふれあう場所、母校の歴史や業績、部活動の歴史、後輩や先輩の活躍している姿など感じられる場所、そこに行けば同窓の誰かにに会える場所、そんな場所があってもいいと思います。

(白田 準 記)

広報部委員会

委員長 小林 伯男
委員 内山 健志
林 量一
東郷 幹夫
白田 準
小池 修
尾崎 圭子
福井 雅之

広報部担当理事 三友 和夫

平成20年4月20日 印刷
平成20年4月25日 発行
東京歯科大学同窓会会報 第363号
同窓会ホームページアドレス
<http://www.tdc-alumni.jp>
発行人 三 友 和 夫
編集人 小 林 伯 男
東京歯科大学同窓会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
電話 (03) 5275-1761
FAX (03) 3264-4859
印刷所 一世印刷株式会社
〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
電話 (03) 3952-5651 (代)